

令和6年度
上宮太子高等学校
学校評価関係

1. 規定
2. 各部署の年間計画及び重点目標
3. 各部署の中間報告
4. 各部署の総括
5. 授業アンケート分析
6. 学校評価に関する報告書
7. 学校関係者評価に関する報告書

1 建学の精神

本学園は浄土宗を母体とし、法然上人の仏教精神を教育の根底におく学校である。知育・徳育・体育のバランスのとれた全人教育をおこない、慈悲の精神を育てることを目標とする。

校訓「正思明行」は、高校生として生徒一人一人が、人間としてあるべき生き方と真理を探究する正しい心の眼と思いを持ち、理想を求めて主体的に行動することを説いている。

また、学順「一に掃除・二に勤行・三に学問」とは、校訓を実現させるための具体的な行動を示している。「掃除」とは文字通り身の環境美化を意図するとともに、学ぶ心の準備を意味する。「勤行」とは勤勉実行を意味する。それは一生を通して求められる生活の行動指針であり、学校生活では学業や課外活動にも規範意識を持って精進努力することであり、社会人となれば強い勤労意欲を持つことである。「学問」は勤行から得られる知識と健康な心身を土台として、未知への探究心や自らの疑問を解決する能力としての智慧を養うことである。すなわち、先ず心を清めて素直な心がけを第一とし、次に己が身の力の限り努力して勉学に勤しめば、学問は自ずと身に備わり、その真価を発揮できることを示している。

2 教育目標（目指す学校像）

- ① 仏教精神に基づく幅広い人間教育をおこなう。
- ② 勉学精進による英才開発、育成をめざす。
- ③ 豊かな自然と歴史に包まれた教育環境の中で、バランスのとれた人格を養う。
- ④ 人を思いやり、人に愛され、また信頼され、社会に貢献できる人づくりをめざす。

3 中期的目標

- ① 礼節を重んじ、常識を身に着け、生きる力を養う
- ② 細やかな指導により学力を向上させ、各コースからの大学合格者数の数値目標や英検の取得目標を実現させる
- ③ 各教科が授業力向上のための研究
- ④ 生徒の愛校心の向上
- ⑤ 受験者数の安定的確保に向けての広報活動
- ⑥ 健全かつ安定的な財務・経営をめざす

上宮太子高等学校 学校評価に関する規定

平成 23 年 3 月 17 日 制定

令和 4 年 6 月 24 日 改定

(趣旨)

第 1 条 この規定は、学校教育法施行規則第 66 条及び第 67 条に基づき、学校法人上宮学園が設置する上宮太子高等学校における教育活動その他学校運営状況に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 学校法人上宮学園が設置する上宮太子高等学校（以下「学校」という。）が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき成果やそれに向けた取り組みの目標を策定し、その達成状況を検証かつ評価することにより改善を図り、学校教育の質的向上に資するために必要な事項を定めるものとする。

(学校評価)

第 3 条 学校評価は、自ら行う自己評価ならびに保護者及びその他の関係者が、学校の自己評価の結果を踏まえて評価する学校関係者評価とする。

第 4 条 自己評価の改善方策の実施のため、学校に学校評価委員会を設置する。

2 学校評価委員会は、自己評価及び学校関係者評価の計画・立案・進行管理・改善策及び結果の公表を行う。

(学校評価委員会)

第 5 条 学校は、第 3 条に定める自己評価のため、学校長、学校参事、教頭、事務長、教務部学校評価係を委員とする学校評価委員会を設置する。

2 学校長は、委員長として学校評価委員会を主宰する。学校評価係は、委員長を補佐し学校評価委員会の会務を推進する。

(自己評価項目)

第 6 条 学校における学校評価委員会は、学校の教育目標に基づき、長・中期及び単年度の重点目標並びに教育活動その他の学校運営に係る評価領域・項目を定める。

2 自己評価を実施するについては、生徒による授業評価、生徒及び保護者に対する学校評価外部アンケートの調査結果も活用する。

(学校関係者評価)

第 7 条 学校における学校関係者評価委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
人数は 5 名程度とする。

- (1) 保護者会役員の中から学校長が委嘱する委員
- (2) 学校卒業生の中から学校長が委嘱する委員
- (3) その他、必要に応じて学校が選出する委員

2 委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。

3 学校における学校関係者評価委員会に委員長を置く。

4 学校における学校関係者評価委員会の委員長は、当該学校関係者評価委員会の会務を総理する。

5 学校における学校関係者評価委員会は、学校の学校運営の改善に資するための必要な助言を付して、自己評価に対する検証結果を学校長に報告する。

6 学校における学校関係者評価委員会が必要と認めたときは、第 7 条第 1 項各号に定める委員以外の者を出席させ、意見を聞くことができる。

7 委員は、その職務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならない。その職を退いた後も同様とする。

(評価結果の報告)

第 8 条 学校評価委員会の委員長は、自己評価及び学校関係者の評価結果と今後の改善方策をまとめ、学園の理事会(理事長)に提出するものとする。

(評価結果の公開)

第 9 条 学校評価委員会の委員長は、自己評価及び学校関係者の評価結果の一部を、ホームページ等で外部に公開するものとする。

(事務の所管)

第 10 条 この規定に関する事務は、学校の学校評価委員会が行う。

附 則

1 この規定は、平成 23 年 3 月 18 日から施行する。

2 第 5 条を、校務分掌の一部見直しにより令和 4 年 6 月 24 日に改訂する。

3 この改正規定は、令和 4 年 7 月 1 日より施行する。

令和 6 年度
学校評価に関する
各部署の重点目標

上宮太子高等学校
学校評価委員会

部署名	教 務 部	担当者	田中 良和
-----	-------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ・ 教務クラウドシステム（B L E N D）の円滑な運用 ・ オープンキャンパス、入試説明会等の生徒募集に繋がる行事の精査と更なる充実 ・ 労働時間の遵守及び就業システムを円滑に運営するため、事務所・総務との連携 ・ 考査規定、観点別評価等の教務内規の再検討 ・ 不登校生徒に寄り添うための ICT 機器等を用いたオンライン授業による単位認定の検討
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・ 教務内規の再検討 ・ 国際理解教育の推進 ・ 有効な指導体系の継続検討

2. 令和6年度に取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1) 教務運営システムの整備・効率化 ①学校行事の確実な実施と改良 ※入念な準備、実施要項作成 ※実施資料(改善点等記録含)の整理・保存・次年度への引継ぎ等 ②教務各係の業務内容の点検・整備 ③教務内規の精査・改定・整備 ※確定規定の明文化と職員周知 ④教務クラウドシステムの円滑な運営 (2) 有効な指導体系の継続検討 ⑤全学年新カリキュラムの導入期における校内整備 ⑥ICT の導入による新しい教授法の検討 (3) 国際理解教育の推進 ⑦社会の動きに併せながら対応をしていく (4) 「朝の学び」の状況把握と調整 ⑧進路指導部と連携のもと運営する (5) 不登校生徒に寄り添うための ICT 機器等を用いたオンライン授業等の単位認定の検討			

※**遂行度**： 各項目の進捗状況 / **達成度**： 各項目の達成・評価状況

※**評価基準**： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	生徒指導部	担当者	尾山 友昭
-----	-------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標			
生活指導	1. 校訓「正思明行」・学順の実践、規範意識の向上	2. 生徒指導の推進と問題行動の予防強化	
	3. 道徳意識，規範意識の向上（頭髮服装検査強化）	4. 生徒の愛校心向上	
生徒会	1. 生徒会活動の活性化	2. 委員会活動の活性化	3. 広報活動
			4. クラブ活動の活性化
教育相談	1. 教職員への啓発・発信	2. スクールカウンセラーと教職員との連携	3. 教育相談室の活用
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標			
生活指導	事故がなく安心して生活できる学校づくり		
生徒会	生徒主導による各種活動		
教育相談	悩みをもつ生徒が、楽しく学校生活が送れるようにする。		

2. 令和6年度取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
生活指導 1. 校訓「正思明行」・学順の実践、規範意識の向上のための取り組み 2. 教員による一律指導を目指し、実践内容を改訂・明確化 大阪私学連盟で得た情報を校内に生かす取組みの実施 3. 身だしなみチェックを実施し、生徒心得遵守を促す 4. 生活委員会の活動を活性化 5. 生徒指導部会議の開催 生徒会 1. 生徒が主体的に動ける行事の運営・学校づくり（体育大会・上宮祭運営、生徒議会の開催、規範意識の向上等） 2. 委員会活動の活性化 3. 広報活動（入試説明会・オープンキャンパス・地域行事参加・リーフレットの作成） 4. クラブ生を主体とした学校の活性化 教育相談 1. 研修会への参加、そして報告 「不登校を考える会」等からの資料プリントの配布 2. カウンセリング希望者との日程・時間等の予約の調整 カウンセリングを受けた生徒（保護者）の状況を把握 スクールカウンセラーによる教職員への研修会開催 3. 担任・学年・係を中心に取り組む 4. 不登校・配慮を要する生徒の把握と適宜の対応を検討			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない	D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	進路指導部	担当者	福田 和憲
-----	-------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標

(短期目標) ※本年度に取り組む目標		
I. 進学実績の目標達成	II. 基礎学力の向上	III. 「iPad が動く学校」の展開への意欲的な挑戦
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標		
IV. 主体性を育む教育	V. 戦略的改革	

2. 令和6年度取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
【学習指導関係】 I. 進学実績の目標達成（高校3年） a 国公立大学10以上合格 b 関関同立17以上合格 c 産近甲龍88以上合格 II. 基礎学力の向上（高校1年・2年） d 進研模試偏差値52以上を学年の1割以上 e 進研模試偏差値46以上を学年の3割以上 f スタディサプリ活用による成績向上 g 「自走」の推進と教員の関わりの指導 【ICT教育推進関係】 III 「iPad が動く学校」の展開への意欲的な挑戦 h Microsoft のプラットフォーム整備 i iPad の新しい使用法の模索 j 教員の iPad 使用を進める k 緊密な情報共有による相互サポート 【探究関係】 IV. 主体性を育む教育 l 探究活動の推進（高校1年・2年） 【全体】 IV. 戦略的改革 m 生産性の高い進路指導体制構築 n 教科への新学習指導要領への対応と啓蒙 o 先生方を巻き込んだ学校全体の意識改革			

※**遂行度**：各項目の進捗状況 / **達成度**：各項目の達成・評価状況

※**評価基準**：

A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない	D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	入 試 対 策 部	担当者	佐々木 哲也
-----	-----------	-----	--------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 (1) 入学者数確保に向けての広報活動 (2) 効果的な広報物を制作・活用 (3) 情報の収集・共有化
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 受験者数の安定的確保

2. 令和6年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1) 入学者数確保に向けての広報活動 入学者数200人を目標。募集定員175人を確保するためには、より多くの保護者、生徒、塾・中学の先生に、上宮太子の名前と良さを案内し、校内に足を運んでもらい上宮太子の魅力を感じて専願で受験してもらうことが必要。 ①受験生や保護者に直接的にアプローチをする。 できるだけ多くの外部ブースに参加し、中学・塾においても生徒・保護者対象説明会に参加させてもらえるよう働きかける。 ②校内に足を運んでもらうことが一番大事なので、校外説明会で会った生徒・保護者に対して、是非とも校内説明会や学校見学に来てもらえるよう働きかける。 ③ オープンキャンパスで人数を確保し、早い段階で太子を気に入ってもらい専願者を増やす。 (2) 効果的な広報物を制作・活用 上宮太子への興味関心を持ってもらうには、ホームページやパンフレット、リーフレットなどが重要となる。広報係との連携のうえ効果的な広報物を制作し募集活動に活用する。 ①早い時期から二つ折りリーフレットやオープンキャンパスリーフレットを主要な中学の全生徒に配布することで上宮太子に対して興味を持ってもらう。 ②高1生の紹介写真を、母校の中学に持参し掲示してもらい、後輩たちに見てもらうことで興味を持ってもらう。 (3) 情報の収集・共有化 世間のニーズに合わせて、上宮太子の良さをアピールし、効果的な広報活動をする必要がある。情報収集と情報の共有化を図り、クラブ応援制度のクラブ顧問および教職員一丸となって広報活動が行えるようにする。 ①校外で知り得た情報を定期的に先生方へ伝え、校内では生徒たちの様子や、日常における些細な行動などの情報をこまめに収集し塾・中学に伝え、面会見の良さをアピールする。 ②上宮高校や上宮学園中学校との情報共有を発展させ、3校で連携を取り、学園全体で広報活動を行う。			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	国 語 科	担当者	八内 宇弘
-----	-------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ・新課程教授法の研鑽 および共通テスト、私立大学入試研究の継続的な研鑽 ・ICT 機器を活用した、生徒との双方向のやりとりを実現する授業形態の模索 ・生徒たちが国語を積極的に学びたいと思えるような「生徒目線」での関わり
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・共通テスト平均点（特進Ⅰ類） 文系7割5分、理系6割5分以上 ・国語科全教員による、新課程の指導要領に沿った双方向のやりとり、表現力の育成を中心とした新しい授業形態の確立および共有

2. 令和6年度の取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1、授業改革による生徒の読解力・表現力の向上 ① 生徒の学習定着をはかるための方策研究 ② 読解トレーニングと読解力向上への取り組み ③ 職員同士での国語力向上についての意見交換 ④ スタディーサブリの積極的な活用 2、各学年での学習指導内容の研究 ①特進Ⅰ・Ⅱ類 模擬試験・大学入試問題等を使用して生徒の到達度を確認 →共通テスト、国公立の大学入試に即応できる実力養成 難関私立大学への進学を視野に入れた実力養成 ②総合進学 →推薦入試への対応 小論文対策 →公募制推薦・一般入試に向けた対策 学習指導内容の改善 新学習指導要領に向けた授業改革 →アクティブラーニングの研究、授業への導入 →ロイロノートを軸とした、iPad 活用法を研究した授業展開 3、教員の研修活動への参加、教科へのフィードバック ① 予備校・大学主催の研修会などへの積極的な参加 →入試の現状把握、教員のスキルアップ ② 教科への研修活動のフィードバック →教科会での参加活動報告 ③「新課程研修会」「記述講座」「研究授業」など、教科内の教員による勉強会の実施			

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	社 会 科	担当者	前田 良仁
-----	-------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 (1) 授業の厳正化と社会科としての強化 (2) 教科会の活性化 (3) 入試問題の研究 (本校入試問題及び大学入試問題) (4) 新カリキュラムへの対応と共に ICT の活用の在り方の研究
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 新カリキュラムへの対応と共に ICT の活用の在り方の研究

2. 令和6年度の実行計画 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1) ①「立腰」から始まる授業に集中できる雰囲気づくりをする。 ②社会科の授業が好きになる工夫をする。 ③高校において、特進コースは平均偏差値 60 以上、総合進学コースは平均偏差値 50 以上をめざす ④授業アンケートを意識した授業を実施し、総合評価で 80% を上回る。 ⑤社会科に関する研修会などへの積極的な参加。 ⑥高校3年生における社会科を入試で捨てさせない意識付け。 (2)①教科会の可能な限りの実施と科目間の連携。 ②授業見学会実施 ③思考力・判断力・表現力を意識した、新課程研究を始める。 (3)①大学入試制度改革に向けた上宮太子高校の入試問題にふさわしい内容にするための研究。 ②大学入学共通テスト、難関私立大学等の入試問題を研究し、高得点につながる科目担当者による研究。 (4)①新カリキュラムへ向けての研鑽 ②ICT の活用の在り方を研究していく。 ③新教科(歴史総合や探究)への対応			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	数 学 科	担当者	藤原 稔
-----	-------	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 1. 授業の厳正化 2. 数学力の向上 3. 教科会の活性化 4. 研修への積極的な参加
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 1. 特進Ⅰ類, 特進Ⅱ類, 総合進学各コースにおける指導方針の統一 2. 理系進学希望者の増強 3. 理系大学進学率の向上

2. 令和6年度取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1. 授業の厳正化 ①個々のより深い教材研究と教材の共有 ②研究授業の実施 ③各コースの特性を見据えた指導計画と実践 2. 数学力の向上 ①家庭学習定着のための内容・量の適正化と推進 ②各学年の偏差値2ポイントアップを目指した模擬試験対策およびやり直しの徹底 ③特進Ⅰ類コースの国公立大合格率向上 ④特進Ⅱ類コースの関関同立大学合格率向上 ⑤総合進学コースの一般入試合合格率向上 (指定校・学校推薦型入試を有効活用するとともに、一般入試に対応できる学力をつける) 3. 教科会の活性化 ①連絡の徹底と教科内の共通認識 ②教科における情報交換と研修 4. 研修への参加 ①アクティブラーニングやICTについての研修を受け、教授法を学び教科会で検討、導入していく。 ②新学習指導要領によるカリキュラム構成、評価方法を研修し、各コースの最適な授業実践計画を検討する。			

※遂行度: 各項目の進捗状況 / ※達成度: 各項目の達成・評価状況

※評価基準:

A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない

B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	理 科	担当者	石川 修二
-----	-----	-----	-------

「より素晴らしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ① 指導力の向上、授業内容の充実 ② 大学入試に対応できる学力の定着
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・ICT 機器を適切に利用した教材の研究

2. 令和5年度の取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① ・指導力の向上、授業内容の充実 a 理科に対する興味・関心の向上、自然観の養成につながる実験や観察の実践 b 大学受験に向けた各学年における実力養成のための方法や課題の研究および実践 c I C T機器を用いた授業や、機器内で使用する教材および新課程の研究 d 国公立、私立などの入試問題の研究 ② 大学入試に対応できる学力の定着 e 生徒に合わせた補講習・単元テストの実施 f 「やり直しノート」の作成・提出、および復習の重要性を意識させる指導の徹底。課題の与え方の検討および改善 g 生徒に寄り添う指導の実践。			

※遂行度：各項目の進捗状況 / ※達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない	D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

Empty box for future content

部署名	英 語 科	担当者	今塩屋 誠
-----	-------	-----	-------

「より素晴らしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 教師が楽しんで授業すること (生徒が楽しむことに繋がる)
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 模試成績を総合進学コースは<u>入学した時より落とさない</u> 特進コースは毎回2ポイント上げる

2. 令和5年度の取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①英語力の向上にむけて ロイロノートなどを使ってこまめに予習のノートチェックをします。 復習のための小テストを総合進学クラスでは単元終了毎に1回程度、特進クラスでは、<u>ほぼ毎回</u>実施します。それを平常点に加味します。 セブ島のオンライン英会話を1、2年生全クラスに導入していますが、授業でも<u>音声重視した指導</u>をします。 <u>特に1、2年生は ELSA を毎時間活用する。</u> <u>辞書を授業中に毎回調べさせて</u>、活用します。 ②生徒の実情に合わせて、模試に対応できる教材を発掘すること。 ③特進Ⅰ類では共通テストの全国平均をリーディング、リスニングとも超えること。 ④<u>研究授業を全員行い</u>、授業改善とレベルアップに取り組む。			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	保健体育科	担当者	内藤 哲也
-----	-------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ・ 集団行動を通じて、社会生活に適応できる姿勢・礼儀などを習得する ・ 各種スポーツを通じて、技能向上と体力作り・協調性を習得する ・ iPad、ロイロノート、デジタル教科書を活用した授業の研究・実践
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・ ICT 機器を利用した視覚化授業の実践

2. 令和6年度取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
時間を守る 授業開始時間に遅れない 集団行動の様式の習得と実践（静と動） 挨拶・姿勢・集解散・方向変換・ラジオ体操 服装を正す 忘れ物を無くす・腰パン・半袖シャツを出さない・体操帽着用 各種目の技術習得 個人技能と集団技能 運動することの必要性、大切さ 生活習慣と生涯健康の関わりを理解する 各種目のルールの理解 ゲームの運営・ルール習得 I C T の導入 iPad、ロイロノート、デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践していく 心肺蘇生法の習得 胸骨圧迫・AED 使用方法			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	芸術科	担当者	渚 昭嘉
-----	-----	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 1. 各行事への協力、取り組み。
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 2. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。 3. 評価、評定について協議する。

2. 令和5年度の取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1. 行事への協力、取り組み。 ① 聖徳書道展への協力。 ② 芸能鑑賞等、教務部との連携。 2. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。 ① 表現力を伸ばすための基礎技術の指導、および基本的な知識をつける。 ・音楽 演奏（器楽、声楽）の基本技術の指導。 音楽史の学習。 ・美術 絵画表現（描写、着彩）と立体表現の指導。 美術史の学習。 ・書道 楷書、行書における用筆法の指導。 書道史の学習。 3. 評価、評定の方法について協議する。 観点別学習状況の中で「知識・技能」、「思考・判断力・表現」についての研究。			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	家庭科	担当者	植田 梨絵子
-----	-----	-----	--------

「より素晴らしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ① 家庭科に対する学習意欲の向上・発展 ② 実践的・体験的な活動を意識させ、生活を改善する意欲と態度を育成 ③ ジェンダーレス社会の教育推進 ④ 教材の見直し・整備 ⑤ タブレット学習の実施計画
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・生活全般の興味関心を高める教材や授業のアップデート化 ・自己のライフデザインを自主的に進められる人材育成

2. 令和6年度取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 家庭科に対する学習意欲の向上・発展 ・新学習指導要領の内容を深め、関連した資料や情報を添付する。 ・課題の未提出者等は催促し、必ず提出させる。 ・他教科（主に現代社会）にも通じるような授業を展開する。 ② 実践的・体験的な活動を意識させ、生活を改善する意欲と態度を育成 ・ものづくりの体験的活動を通して、家族の人間関係や家庭の機能を理解させる。 ・生活に必要な基礎的・基本的な知識・技術を身につけさせ、生活を工夫し創造する能力を育成する。 ③ ジェンダーレス社会の教育推進 ・自己肯定感を高め、共に協力し、助け合えるよう自立を促す。 ④ 教材の見直し・整備 ・環境に配慮し、主体的に生活を営む能力を育てるため、自ら課題をみつけ、展開できる問題解決を図る教材を検討する。 ・情報化に対応し、生活と家庭科との関わり、情報手段の活用内容の充実を図る。 ⑤ タブレット学習の実施計画 ・教科で活用することで、デバイスの操作に慣れることや意見の共有や刺激を受けるよう、デジタルでのアウトプットの回数も増やす。			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	情報科	担当者	須藤 秀裕
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ① より良い授業内容にするための検討 ② 新学習指導要領における教材研究 ③ 大学入試制度改革に関する情報収集
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ④ 大学入試科目への対応

2. 令和6年度の実行計画 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
・ ① より良い授業内容にするための検討 a iPad を利用した実習課題の研究 b 教科書に準拠した補助教材の研究 ② 新学習指導要領における教材研究 c プログラミング教育に関する教材研究 d カリキュラムを含めた授業計画案の検討 ③ 大学入試制度改革に関する情報収集 e 「情報科」大学入試導入に関する情報収集 f 「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加 ④ 大学入試科目への対応 g 共通テストに関する情報収集 h 共通テストへの対策			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / ※達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	宗 教 科	担当者	柴田 直毅
-----	-------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ①校訓、学順の理解 ②授業内容のさらなる充実 ③宗教行事の理解と実践
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ICTを活用した授業の実践、自ら考えを論述、表現できる力の育成

2. 令和6年度取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
・ ① 校訓、学順の理解 (1) 授業を通じて「挨拶」の実践を徹底する。 (2) 礼儀作法について学習、実践をする。 ② 授業内容のさらなる充実 (1) 授業開始時の一枚起請文奉読を徹底する。 (2) 生徒の理解に適した授業を展開する。 アクティブラーニングの実践 ③ 宗教行事の理解と実践 (1) 授業において宗教行事の由来、意義を学習する。 (2) ICTによる授業、宗教行事の理解			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / ※達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	高 1 学 年	担当者	茶田 昌蔵
-----	---------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

（短期目標）※本年度に取り組む目標 (1)「正思明行」、学順の実践とメリハリのある指導 (2)生徒・保護者・教員の意味疎通 (3)学力向上（特に英語、数学、国語）のための方策と学習習慣の確立 【目標：特進Ⅰ類コース（偏差値 60 以上）、特進Ⅱ類コース（偏差値 55 以上）、総合進学コース（偏差値 50 以上）】 (4)担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通
（中・長期目標）※数年計画で達成したい目標 (1)個々の将来の目標設定・目標を意識した進路指導の実践 (2)社会の一員であることの意識の定着（デジタル社会を生き抜く力の養成）

2. 令和6年度の取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1)①法然上人の教え・校訓「正思明行」・学順を意識した指導 ②「明るく」「正しく」「仲良く」「厳しく」を意識した指導 ③メリハリのある行事企画と充実 (2)①家庭と学校との綿密な連携 ②効果的な LHR や学年集会の実施 (3)特に英語・数学・国語を意識した学力向上のための方策と学習習慣の確立 ①『立腰』で授業を始めることによる落ち着いた環境づくり ②競争することを意識した学習への取り組み ③毎日早朝テストを実施することによる毎日の家庭や通学時間を利用した学習の習慣の確立 ④定期考査前の補習の実施 ※総合進学コースの目標 ①良き生活習慣の確立 ②模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値 45～50 を目指す。 ③高1 終了段階で英語検定 3 級の全員合格を目指す。 ※特進Ⅰ・Ⅱ類コースの目標 ① 良き生活習慣の確立 ② 模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値 50 以上を目指す。そして、全国偏差値 60 以上をめざす。 ③ 高1 終了段階で英語検定準 2 級の全員合格を目指す。 (4)① 学年担当者会議の可能な限りの実施 ② 職員室内における日常の会話による生徒の情報交換			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	高 2 学 年	担当者	松井 康浩
-----	---------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 (1)「正思明行」、学順の実践と人間力の向上、「明るく、正しく、仲良く、そして厳しく」を意識した指導 (2)生徒・保護者・教員の意思疎通 (3)学力向上（特に英語、数学、国語）のための方策と学習習慣の確立 【目標：特進Ⅰ類コース（偏差値 60 以上）、特進Ⅱ類コース（偏差値 55 以上）、総合進学コース（偏差値 50 以上）】 (4)ICT 機器を利用した教授法の研究・推進 (5)担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 (1)個々の将来の目標設定・目標を意識した進路指導の実践 (2)社会の一員であることの意識の定着（デジタル社会を生き抜く力の養成）

2. 令和6年度取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1)①法然上人の教え・校訓「正思明行」・学順を意識した生徒指導 ②思い出に残る修学旅行の企画と充実 ③学年企画による校外学習のリベンジ (2)①家庭と学校との綿密な連携 (3)①勉強に集中できる学級の雰囲気作り ②毎日の家庭での学習の習慣の確立 ③定期考査前の補習の実施 ※総合進学コースの目標 ①模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値 50を目指す ※特進Ⅱ類コースの目標 ①模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値 55を目指す ※特進Ⅰ類コースの目標 ①模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値 60を目指す (4)①iPad での課題配布 ②ICT 機器の積極的な活用による授業展開 (5)①学年担当者会議の可能な限りの実施 ②日常の会話による生徒の情報交換			

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない	D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	高 校 3 年	担当者	漁野 篤史
-----	---------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 1. 協働力を高め、人道を知り、公共心を育む。 2. 自律性を養い、自己効力感を高める。 3. 知識を身につけ、好奇心を育み、基礎学力と学習習慣を身につけて、志望大学に合格させる。 (国公立大学合格10以上、関関同立合格17以上、産近甲龍合格88以上、各生徒の進学目標達成)
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 校訓「正思明行」を体現した、自走できる生徒づくり(三五力の完成)

2. 令和6年度取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1. 協働力を高め、人道を知り、公共心を育む。 (1) 役割を与え、励まし、協力し合える環境を整える。(学級活動の活性化) (2) 他人のために、できることを考えさせる。(人権、宗教、青少年赤十字活動) 2. 自律性を養い、自己効力感を高める。 (1) 自分達のことは自分達でできる様にする。(日直・係) (2) 「やればできる」を合言葉に、達成感を感じる取り組みを行う。(褒めて育てる) 3. 知識を身につけ、好奇心を育み、基礎学力と学習習慣を身につけて、志望大学に合格させる。 (1) 授業およびコース別補講習の充実 (2) 国公立大学合格10以上、関関同立合格17以上、産近甲龍合格88以上、各生徒の進学目標達成			

※遂行度：各項目の進捗状況 / ※達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	人 権 教 育	担当者	前田 良仁
-----	---------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ①学年の現状に合わせた新しい教材を使った教案の作成 ②育てる人権教育の実践 ③いじめ防止対策委員会の年間計画に基づく人権教育の実践
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 学校生活の中で人権問題(友達との関係、SNS、LINEによる問題など)を認識する。

2. 令和5年度の取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①教材の開発 生徒の実態を考慮した教材の開発 SNS、インターネットと人権などに関する新しい教材を開発する ②育てる人権教育の実践 自他を理解した集団づくり(クラス、クラブ活動) 相手の立場、気持ちを理解する ③生活アンケート 生活アンケートを各学期の最後に実施する、 差別、偏見をテーマにした人権教育LHRの実践			

※遂行度: 各項目の進捗状況 / 達成度: 各項目の達成・評価状況

※評価基準: A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	保健管理	担当者	大倉 笑
-----	------	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 - 生徒の多様なニーズに伴い、保健室運営の充実を図る - 健康診断を生徒が積極的に受けるよう健康教育に関する資料を集積し活用させる - 一人一人を大切にした健康相談を行う
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標

2. 令和6年度取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
- 生徒の多様なニーズに伴い、保健室運営の充実を図る ・的確な救急処置対応 ・心の問題を抱え込まない環境づくり - 健康診断を生徒が積極的に受けるよう健康教育に関する資料を集積し活用させる ・健康診断の意義・健康診断の内容について、校内ネットワークを活用する ・教職員との情報の共有化を図る - 一人一人を大切にした健康相談を行う ・傾聴を心がけ、適切な指導ができるよう自身の資質の向上を図る			

※遂行度：各項目の進捗状況 / ※達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：
A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった
B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない
D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	図 書 教 育	担当者	植田 梨絵子
-----	---------	-----	--------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ①学校司書と協働した図書室の運営管理の充実 ②書籍の充実 ③委員会を主体とした読書啓発活動の推進 ④図書室行事や利用者向上のための広報活動
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・OPAC 利用や蔵書管理システムの有効活用 ・公的図書館や近隣大学との連携

2. 令和6年度取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 学校司書と協働した図書室の運営管理の充実 ・紀伊國屋書店と連携を図り、業務の効率化や蔵書管理の徹底を行う。 ② 書籍の充実 ・専門的な視野やジャンルレスな本の選書を心がけ、さまざまな書店や図書館と意見交換を行う。 ③ 委員会を主体とした読書活動の推進 ・委員の条件を提示し、積極的に活動ができる生徒を募集し、図書室利用や読書推進に貢献する生徒を育てる。 ④ 図書室行事や利用者向上のための広報活動や ・図書室のイベント企画を計画的に行う。 ・活動の機会を増やすよう探究や HR、各教科での活用を促す。 ・教職員の利用を促進させる。 ・授業や行事で活用する連絡を徹底し、作業の計画が崩れないようにする。 ・授業で利用しやすいよう工夫をする。 (資料の整備や本の提案など)			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	広 報	担当者	湊 昭嘉
-----	-----	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標

（短期目標）※本年度に取り組む目標 ・次年度生徒募集につながる広報物の発行 ・ブログの更新回数やInstagramを活用した効果的な広報活動の検討・実施。 ・近隣地域に向けた広報活動の充実。（道路沿いの横断幕、バス側面の広告等） ・入試対策部及び新しい広報依頼業者との連携強化。
（中・長期目標）※数年計画で達成したい目標 ・学園財政を鑑み、広報効果が低い紙媒体や説明会ブースを削減し、広報費用のコスト削減を図る。 ・今後の広報戦略における立案を図る。

2. 令和6年度取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
（1）本校ホームページの更なる改良 ・広報依頼業者と連携を図り、ホームページが利便性の高い状態を維持する。			
（2）ブログの更新回数増加とアップ内容の精査 ・ホームページのアップ内容を精査し、日常的に学校の情報を発信することを目指す。			
（3）近隣地域に向けた広報活動の充実 ・見やすく、インパクトのあるものを作成する。			
（4）Instagram活用の検討 ・時代に合わせた広報活動を追究する。			
（5）学園財政を鑑み、広報費用の見直し ・昨年度の実績をもとに費用対効果の高いものを選定し広報活動を行う。			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	事務室	担当者	松井 保
-----	-----	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

（短期目標）※本年度に取り組む目標 ① 生徒・保護者・教員とのコミュニケーションの充実 ② 企画・運営に関する事務 ③ 校内・教育環境のさらなる整備
（中・長期目標）※数年計画で達成したい目標 学校の課題を真摯に考え、より地域に密着した必要とされる学校運営を模索する。

2. 令和6年度取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① コミュニケーションの充実 事務室は、生徒・保護者、来客との重要な役目である窓口を担っている。事務部門はもとより、教務部門と外部をスムーズにつなげるべく学内でしっかりと情報共有を図る。周囲とのコミュニケーションを密にし、情報の抜け漏れや、うっかりミスを防ぐためにも複数回、確認を取るなど、工夫を凝らしたい。 ② 企画・運営に関する事務（昨年度継続） 積極的に学校の課題を把握できるよう常々アンテナの感度を上げておく。また、その課題に対し、多面的な観点を踏まえながら、改善策を提案・実現していく。 ③ 校内・教育環境のさらなる整備 中長期的な視点から優先順位をつけて魅力ある施設づくりを目指す。 ※地域の課題やニーズを把握すべく積極的に外部の人々と接点を持つべく情報収集を図る。			

※**遂行度**： 各項目の進捗状況 / **達成度**： 各項目の達成・評価状況

※**評価基準**： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

令和 6 年度
学校評価に関する
各部署の中間評価報告

上宮太子高等学校
学校評価委員会

令和6年度各部署の中間評価

報告書

部署名	教 務 部	責任者名	田中 良和
(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ・ 教務クラウドシステム（B L E N D）の円滑な運用 ・ オープンキャンパス、入試説明会等の生徒募集に繋がる行事の精査と更なる充実 ・ 労働時間の遵守及び就業システムを円滑に運営するため、事務所・総務との連携 ・ 考査規定、5段階基準、観点別評価等の教務内規の再検討 ・ 不登校生徒に寄り添うための ICT 機器等を用いたオンライン授業による単位認定の検討			
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・ 教務内規の再検討 ・ 国際理解教育の推進 ・ 有効な指導体系の継続検討			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 各学校行事においては、年度ごとに改善・改良を加えてより良いものになるように進めている。今年度は特に上宮祭が第40回の記念開催であった為、多くの新規企画を導入した。また全てのオープンキャンパスで前年を上回る参加者数があり、次年度の生徒募集に向けて、学校の魅力を外部に発信していきたい。引き続き教務部内の各係から出た課題や問題点を集約し、改善に向けて取り組んでいく。 【年度末に向けての検討事項】 ・ 入試説明会等における新しい「見せ方」の検討 ・ 現行カリキュラムの見直し、スリム化への検討。 ・ 観点別評価及び新教務システムの円滑な運用。 ・ 教務内規・考査規定の再検討。 ・ 教職員研修会等、教職員が相互に研鑽出来る機会の設定。			

令和6年度各部署の中間評価

報告書

部署名	生徒指導部	責任者名	尾山 友昭
(短期目標) ※本年度に取り組む目標 生活指導 1. 校訓「正思明行」・学順の実践、規範意識の向上 2. 生徒指導の推進と問題行動の予防強化 3. 道德意識、規範意識の向上（頭髪服装検査強化） 4. 生徒の愛校心向上 生徒会 1. 生徒会活動の活性化 2. 委員会活動の活性化 3. 広報活動 4. クラブ活動の活性化 教育相談 1. 教職員への啓発・発信 2. スクールカウンセラーと教職員との連携 3. 教育相談室の活用			
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 生活指導 事故がなく安心して生活できる学校づくり 生徒会 生徒主導による各種活動 教育相談 悩みをもつ生徒が、楽しく学校生活が送れるようにする。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 ・ 生徒会クラブ規約の改定 ・ 携帯電話の不正使用についての啓発 ・ 自転車の交通ルールの徹底			

令和6年度各部署の中間評価

報告書

部署名	進路指導部	責任者名	福田 和憲
（短期目標）※本年度に取り組む目標 【学習指導関係】 ・国公立大学10以上、関関同立17以上、産近甲龍88以上合格 ・スタディサブリ活用 ・1/2学年進研模試偏差値52以上1割、46以上3割を達成 今年度の成績はどのコースにおいても目標に大きく届かない。高3の目標達成は非常に厳しいと言わざるを得ない。 特進Ⅰ類の生徒が大量に不登校に陥っている状況はどうしても結果に大きく影響するが、他のコースでも勉強を頑張るという機運が高まっているわけではない。そもそもどんどん生徒の学力層が低くなっている中で、もっと抜本的なシステムを構築する必要があるのかも知れない。 【ICT教育推進関係】・Microsoftプラットフォームの整備など ICTにおいても、Microsoftプラットフォームは整備したものの、先生方の連絡ツールとしての域を脱しておらず、生徒と教員の授業などでの革新的な利用までつながっていない。まだまだ研究が必要。 今後は生成AIの教育での活用法などを探り、来年度以降の授業につなげていきたいと考えている。			
（中・長期目標）※数年計画で達成したい目標 【探究関係】・探究活動の推進 ・先生方を巻き込んだ学校全体の意識改革 探究については来年度より新たな形を模索したいと考えているが、今までのような小手先のものではなく、「太子の探究」の大きな流れをしっかりと作らないとならない。システムから目標、3年間の計画から授業での実施内容の全てに至るまでフルリニューアルして、太子の新しい売りになるものを構築したい。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 スタディサブリの活用指導が学校全体の成績向上や意欲向上につながるほどの変化をもたらしているとは言えない。引き続き、学年への働きかけと、現場と理解を共有したさらなるシステム作りが必要。 また、全体的に生徒の学力低下が著しい。特にこの3年については加速度的である。学校全体の問題としてとらえ、先生方への各教科の学習カリキュラムへの働きかけも必要な状態である。わが校が掲げる「自走」の目標が絵にかいた餅にならぬよう、学校全体の内部改革が必要な時期に来ている。今年度の後半は、その研究に時間を当てたい。			

令和6年度各部署の中間評価

報告書

部署名	入 試 対 策 部	責任者名	佐々木 哲也
(短期目標) ※本年度に取り組む目標 (1) 受験者数確保に向けての広報活動 中学や塾において、在校生の普段の様子や成績、また進路・大学合格情報などをこまめに伝えることで、生徒を安心して預けていただけるようにした。校外での説明会においては、多くの先生方に参加していただくことによって、いろいろなアプローチの仕方で元気のある太子をアピールすることができた。出前授業における先生方のお力で、多くの中学生に上宮太子の授業の魅力が伝わり、上宮太子の名前を知ってもらえた。 (2) 効果的な広報物を制作・活用 今年度も、中学ごとに1年生のコメント付きの写真を作成して持参し、多くの中学生に見てもらえるようにした。広報物については、二つ折りリーフレット、オープンリーフレット、行事リーフレット以外にも、クラブ応援リーフレットやネクタイリーフレットなど、その時期に応じて必要なものを追加した。上宮祭のチケットについても、昨年度よりも3校多く中学に配布した。 (3) 情報の収集・共有化 渉外活動において知り得た情報については、入試対策部内で共有化を行っている。プロジェクト会議でもできるだけお伝えするようにした。			
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 今は授業料無償化の流れで全体的に私学専願が増えている。この流れが続く2～3年で大阪府の公立高校の動きや、近隣の私学の動き、および保護者・受験生のニーズなどをきっちりと把握し、今後の太子のあり方を決めて、世間の動きに左右されることなく専願者数を確保できるような、未来の高校をリードする上宮太子を構築しアピールしていく。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 今年度も、昨年より多くの受験生・保護者が太子に足を運んでくれたり、外部ブースで太子の話を聞きに来てくれている。興味を持って上宮太子に関わってくれた受験生・保護者・中学・塾・クラブチームに対して、入試対策部やクラブ顧問がどれだけアプローチ・フォローをかけて、どう受験に結びつけ専願の魅力を伝えていくかが大事になる。入試対策部としては、参加してくれた生徒が在籍している中学・塾に訪問し、ラインを伝えることで安心して受験できることをアピールする。			

令和6年度各部署の中間評価

報告書

部署名	国 語 科	責任者名	八内 宇弘
(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ・新課程教授法の研鑽 および共通テスト、私立大学入試研究の継続的な研鑽 ・ICT 機器を活用した、生徒との双方向のやりとりを実現する授業形態の模索 ・生徒たちが国語を積極的に学びたいと思えるような「生徒目線」での関わり			
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・共通テスト平均点(特進Ⅰ類) 文系7割5分、理系6割5分以上 ・国語科全教員による、新課程の指導要領に沿った双方向のやりとり、表現力の育成を中心とした新しい授業形態の確立および共有			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 ・ICT 機器を利用した授業の活性化 ・共通テスト、私立大学入試研究 ・新課程教授法の研鑽 ・国語科教員への研修			

令和6年度各部署の中間評価

報告書

部署名	社 会 科	責任者名	前田 良仁
(短期目標) ※本年度に取り組む目標 (1)①「立腰」から始まる授業に集中できる雰囲気づくりをする。 ②社会科の授業が好きになる工夫をする。 ③高校において、特進コースは平均偏差値 60 以上、総合進学コースは平均偏差値 50 以上をめざす ④授業アンケートを意識した授業を実施し、総合評価で 80%を上回る。 ⑤社会科に関する研修会などへの積極的な参加。 ⑥高校3年生における社会科を入試で捨てさせない意識付け。			
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 (2)①教科会の可能な限りの実施と科目間の連携。 ②授業見学会実施 ③思考力・判断力・表現力を意識した、新課程研究を始める。 (3)①大学入試制度改革に向けた上宮太子高校の入試問題にふさわしい内容にするための研究。 ②大学入学共通テスト、難関私立大学等の入試問題を研究し、高得点につながる科目担当者による研究。 (4)①新カリキュラムへ向けての研鑽 ②ICT の活用の在り方を研究していく。 ③新教科(歴史総合や探究)への対応			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 ・ 大学の入試研究が活かしきれない。 → 新カリキュラムの対応に苦慮 共通テストの変化が見えず ・ 入試における社会科の活用の減少に歯止めかけられず → ある程度の大学は、一般までに合格しておく必要性			

令和6年度各部署の中間評価

報告書

部署名	数 学 科	責任者名	藤原 稔
(短期目標) ※本年度に取り組む目標 1. 授業の厳正化 2. 数学力の向上 3. 教科会の活性化 4. 研修への積極的な参加			
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 1. 特進Ⅰ類, 特進Ⅱ類, 総合進学各コースにおける指導方針の統一 2. 理系進学希望者の増強 3. 理系大学進学率の向上			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 1. 授業の厳正化 ①個々のより深い教材研究と教材の共有 ②研究授業の実施 ③各コースの特性を見据えた指導計画と実践 2. 数学力の向上 ①家庭学習定着のための内容・量の適正化と推進 ②各学年の偏差値2ポイントアップを目指した模擬試験対策およびやり直しの徹底 ③大学入試問題の研究・研修と生徒への還元 3. 教科会の活性化 ①連絡の徹底と教科内の共通認識 ②教科における情報交換と研修 4. 研修への参加 ①アクティブラーニングやICTについての研修を受け教授法を学び教科会で検討導入していく。 ②新学習指導要領によるカリキュラム構成, 評価方法を研修し、各コースの最適な授業実践計画を検討する。			

令和6年度各部署の中間評価

報告書

部署名	理 科	責任者名	石川 修二
(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ① 指導力の向上、授業内容の充実 a 理科に対する興味・関心の向上、自然観の養成につながる実験や観察の実践 → 時間数の制限の中、各教科で適切な時期に実験を行っている。 b 大学受験に向けた各学年における実力養成のための方法や課題の研究および実践 → 生徒の状況に合わせた教材や課題の作成、定期的な講習を行っている。 c ICT機器を用いた授業や、機器内で使用する教材および新課程の研究 → 授業のスライドやプリント作成、課題の配布提出に ICT を利用している。 d 国公立、私立などの入試問題の研究 → 3年生の講習の教材とも並行して、国公立、私立とも研究を進めている。 ② 大学入試に対応できる学力の定着 e 生徒に合わせた補講習・単元テストの実施 → 今年も実践中。 f 「やり直しノート」の作成・提出、および復習の重要性を意識させる指導の徹底。 課題の与え方の検討および改善 → ロイロノートの使用により、生徒とのやり取りがより充実している。 g 生徒に寄り添う指導の実践 → 最も積極的に取り組んでいる。生徒からの質問には最優先で対応している。			
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・ ICT 機器を適切に利用した教材の研究 → デジタル教材などの授業時の使用で、より適切な見せ方、流れになるよう資料研究をしながら授業を行っている。授業はほぼ毎日のことなので、自転車操業的になるが、仕方がないと考えている。ICT の強みはやはり「提出物」に尽きる。資料提供や提出物回収の安定性において頼もしい存在である。提出物で扱える内容も増え、作業の動画や音声なども扱えるため、こちらの教材および課題研究に良い刺激となっている。			

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

- ・ 探究的学習は大変時間がかかり、単位数の少ない科目の授業では実施が難しい。

定期考査後などの時間でかろうじて行うが、おまけ感が否めない。

成績の中心は考査の点数であり、より良いレポートやまとめられた課題より、

授業をしっかり受け、点数に還元した方が結果につながりやすいため、

文科省の求める「探究的学習」像に力を注ぎきれない現実がある。

また、工夫や積極性などを点数化するにしても、理科が好きな生徒は工夫も積極

性もあって点数も取れ、そうでないものは多くが後ろ向きで点数も取れない。

興味関心の有無は、能力ではなく性格に関係している部分もあり、点数ほど簡単

に評価基準を決められない。現状は平常点程度の扱いであるが、この部分での

点数の開きが生じすぎないため、ある意味これが救いになっていることも悩み

の種である。

令和6年度各部署の中間評価

報告書

部署名	英 語 科	責任者名	今塩屋 誠
(短期目標) ※本年度に取り組む目標 教師が楽しんで授業すること (生徒が楽しむことに繋がる) (総合進学コース) グループ学習などを利用して寝かせないで、全員を参加させている授業もあるが、生徒のレベル低下に対応できていない授業もあり、また、それを改善してもらうアドバイスをする余裕もなく日々、苦悩している英語教師が多いように思う。 (特進Ⅰ類・Ⅱ類コース) 順調に伸びている生徒もいるが、まったくついてこない生徒も多くいて、差が激しく、授業レベルの設定が難しく苦勞している。			
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 総合進学コースの生徒のレベル低下に対応できていないので教材選定から見直す必要がある。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 ELSAなども導入して活発にしているクラスもあるが、利用できていない教師もいるのが実情である。 3学期に若い先生方の研究授業を行い、ベテラン教師の刺激を期待している。			

令和6年度各部署の中間評価

報告書

部署名	保健体育科	責任者名	内藤 哲也
(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ●集団行動を通じて、社会生活に適応できる姿勢・礼儀などを習得する →各授業の中で、生徒への指導を継続中 ●各種スポーツを通じて、技能向上と体力作り・協調性を習得する →各授業の中で、生徒への指導を継続中 ●iPad、ロイロノート、デジタル教科書を活用した授業の研究・実践 →各授業において普通に使用するような感覚になりつつある ●できるだけ主観の採点基準をなくすように工夫し、誰が教科担当になっても同じような評価が出来るように細かな授業内容、採点方法を教科で統一することに力を入れる。			
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ●各種目の実技試験を統一化 →教員によって実技試験が変わらないような内容を構築し、採点基準を明らかにする(主観的観点から客観的観点重視の考え方)			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 ●出前授業の実施 ●まだ実施されていない項目に関しては進める努力をおこなう			

令和6年度各部署の中間評価

報告書

部署名	芸 術 科	責任者名	湊 昭嘉
（短期目標）※本年度に取り組む目標 行事への協力、取り組みについて。 ・ 聖徳書道展において案内発送、展示のレイアウト及び展覧会の運営に協力できた。 ・ 上宮祭において文化的な発表面で協力できた。			
【中・長期目標】※数年計画で達成したい目標 （１）表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。 ・ 二科目とも実技を中心に行いながら歴史的なことにも触れ、進められている。 （２）評価評定の方法について協議する。 ・ 教科会にて何度か評定のあり方について会議をしているが、今も進行中である。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 ・ 芸術科は、五教科では学べない部分を教えるべきだと考えているので、評価評定についてもどうあるべきか、継続して考えていきたい。			

令和6年度各部署の中間評価

報告書

部署名	家庭科	責任者名	植田 梨絵子
(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ① 家庭科に対する学習意欲の向上・発展 ② 実践的・体験的な活動を意識させ、生活を改善する意欲と態度を育成 (①②の内容) 青年期に家庭科教育がなぜ必要なのかを伝え、実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度の育成は、身近な生活からの知識を精査し、習得したその知識を生かすことができるように促している。 ③ ジェンダーレス社会の教育推進 多角的にとらえられる視点を私自身も意識し、学習しながら、生徒と共にタイバーシティー化している社会を見据えていけるように各分野の授業を展開している。 ④ 教材の見直し・整備 教科書や評価が年々変化しているため、見直しを図っている。効果的な情報を収集し、わかりやすく授業で伝えられようデバイスの活用などを精査している。 ⑤ タブレット学習の実施計画 クラスの授業数が合わせにくいため、現状は授業時間の調整として活用している。			
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・生活全般の興味関心を高める教材や授業のアップデート化 生活に密着している教科であるので、定期テストの対策のための授業にならないよう、実践的な知識や技術・新しい情報活用を促していく。 ・自己のライフデザインを自主的に進められる人材育成 18歳成人をさらに意識させ、進路選択や社会における責任の在り方を学ばせていく。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 タブレットを含めたデバイスを活用した授業を増やし、思考を発展的にさせ、主体的な学習が評価につながられるよう工夫をする必要がある。昨年に引き続き、各分野でのルーブリックをさらに明確にし、公平でわかりやすいものにしていきたい。生活の質の向上(QOL)を目指し、生活の中から様々な学習につながるように促していきたい。			

令和6年度各部署の中間評価

報告書

部署名	情報科	責任者名	須藤 秀裕
(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ① より良い授業内容にするための検討 a iPad を利用した実習課題の研究については、現在も取り組んでいる。 b 教科書に準拠した補助教材の研究については、現在も継続している。 ② 新学習指導要領における教材研究 c プログラミング教育に関する教材研究については、現在も継続している。 d カリキュラムを含めた授業計画案の検討については、まだ取り組めていない。 ③ 大学入試制度改革に関する情報収集 e 「情報科」大学入試導入に関する情報収集については、現在も継続している。 f 「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加については、現時点では参加できていない。			
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ④ 大学入試科目への対応 ・ 共通テストに関する情報収集については、現在も継続している。 ・ 共通テストへの対策については、現在、3年生で実施している。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 すでに取り組んでいる項目については、今後も継続して実施する。 ・ まだ、取り組めていない項目については、今後実施できるように努力する。			

令和6年度各部署の中間評価

報告書

部署名	宗教科	責任者名	柴田 直毅
(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ●授業開始の「一枚起請文」奉読について。1年生はよく声を出して奉読しています。2年生、3年生になると恥ずかしいのか、黙読していることが多いです。生徒の自主性を第一にしていきたいです。 ●パワーポイントを利用して授業展開、内容を工夫・検討しています。 ロイロノートにおいて、浄土宗開宗850周年のアンケートを記述、提出させました。 ●体育館での行事(御忌式、校祖誕生会など)において、献華、献香などの作法を指導しました。物故者追悼会は今後、実施しないとの事でした。			
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 生徒が分かりやすい、興味関心をもつ教材を研究したいです。 ロイロノートも活用した授業を展開していきたいです。 現在は生徒の意見、考えを提出箱に送信させています。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 各コースに応じた授業内容の工夫を検討しています。 思考、判断ということに着目して、自ら考え主体的に学習できる授業を展開したいです。 生徒が少しでも関心を持てる教材を日々研究していきたいです。			

令和6年度各部署の中間評価

報告書

部署名	高 1 学 年	責任者名	茶田 昌蔵
(短期目標) ※本年度に取り組む目標 (1)「正思明行」、学順の実践とメリハリのある指導 (2)生徒・保護者・教員の意思疎通 (3)学力向上（特に英語、数学、国語）のための方策と学習習慣の確立 【目標】 特進Ⅰ類コース（偏差値 60 以上）、 特進Ⅱ類コース（偏差値 55 以上）、 総合進学コース（偏差値 50 以上） (4)担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通			
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 (1)個々の将来の目標設定・目標を意識した進路指導の実践 (2)社会の一員であることの意識の定着（デジタル社会を生き抜く力の養成）			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 学力の低さが目立つ。全体としての底上げを図るべく、担当教員と連絡を密にとり、試行錯誤しながら、様々な取り組みを行っている。 年度末に向けて、英検3級の取得者を増やすよう指導していく。			

令和6年度各部署の中間評価

報告書

部署名	高 2 学 年	責任者名	松井 康浩
（短期目標）※本年度に取り組む目標 (1)「正思明行」、学順の実践と人間力の向上、「明るく、正しく、仲良く、そして厳しく」を意識した指導 (2)生徒・保護者・教員の意思疎通 (3)学力向上（特に英語、数学、国語）のための方策と学習習慣の確立 目標：特進Ⅰ類コース（偏差値 60 以上） 特進Ⅱ類コース（偏差値 55 以上） 総合進学コース（偏差値 50 以上）】 (4)ICT 機器を利用した教授法の研究・推進 (5)担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通			
（中・長期目標）※数年計画で達成したい目標 (1)個々の将来の目標設定・目標を意識した進路指導の実践 (2)社会の一員であることの意識の定着（デジタル社会を生き抜く力の養成）			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 それぞれのコースにおいて、特に学力向上の面において課題が多い。英検の合格率もよくなく、今後の課題と感じている。			

令和6年度各部署の中間評価

報告書

部署名	高 校 3 年	責任者名	漁野 篤史
(短期目標) ※本年度に取り組む目標 1. 協働力を高め、人道を知り、公共心を育む。 2. 自律性を養い、自己効力感を高める。 3. 知識を身につけ、好奇心を育み、基礎学力と学習習慣を身につけて、志望大学に合格させる。(国公立大学合格10以上、関関同立合格17以上、産近甲龍合格88以上、各生徒の進学目標達成)			
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 校訓「正思明行」を体現した、自走できる生徒づくり(三五力の完成)			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 1. (1) 学級活動の活性化 ・校外学習実行委員会を立ち上げ、企画・運営に取り組ませた。 (2) 人権、宗教、青少年赤十字活動 ・サマー献血スクール(青少年赤十字活動)に4名の生徒が参加した。 2. (1) 日直・係 ・日直による朝礼・終礼を通じて、主体的な行動力を養っている。引き続き、教員が手を離せる場を作っていきたい。 (2) 褒めて育てる ・学びみらいPASSの結果などから、生徒の強みを引き出したい。 3. (1) 授業およびコース別補講習の充実 ・コースごとに講習を設定し、運営している。 (2) 国公立大学合格10以上、関関同立合格17以上、産近甲龍合格88以上、各生徒の進学目標達成 ・総合型選抜や学校推薦型選抜の入試が始まり、進学先が決定した生徒が徐々に増えてきている。進学目標達成のために指導を続ける。			

令和6年度各部署の中間評価

報告書

部署名	人 権 教 育	責任者名	前田 良仁
(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ①教材の開発 生徒の実態を考慮した教材の開発 SNS, インターネットと人権などに関する新しい教材を開発する ②育てる人権教育の実践 自他を理解した集団づくり(クラス、クラブ活動) 相手の立場、気持ちを理解する ③生活アンケート 生活アンケートを各学期の最後に実施する、 差別、偏見をテーマにした人権教育LHRの実践			
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 SNS, インターネットと人権などに関する新しい教材を開発する			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 差別、偏見をテーマにした人権教育LHRの実践 → 管理と計画の見直し			

令和6年度各部署の中間評価

報告書

部署名	保 健 管 理	責任者名	大 倉 笑
（短期目標） ※本年度に取り組む目標 - 生徒の多様なニーズに伴い、保健室運営の充実を図る ・ 的確な救急処置対応 ・ 心の問題を抱え込まない環境づくり - 健康診断を生徒が積極的に受けるよう健康教育に関する資料を集積し活用させる ・ 健康診断の意義、健康診断の内容について、校内ネットワークを活用する ・ 教職員との情報の共有化を図る - 一人一人を大切にした健康相談を行う ・ 傾聴を心がけ、適切な指導ができるよう自身の資質の向上を図る			
（中・長期目標） ※数年計画で達成したい目標 現在の生徒には、肥満・痩身、生活習慣の乱れ、メンタルヘルスの問題、アレルギー疾患の増加、性に関する問題など、多様な課題が生じている。 生徒の身体的不調の背景に、いじめ、不登校、虐待、貧困などの問題が関わっていることを念頭に、サインにいち早く気づき、教職員と情報共有することを徹底していきたい。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 上半期、保健室来室者数は、984名で、外科的な処置311名、内科的な処置655名であった。 心因的な理由で来室する場合は、保健室滞在時間も長くなる傾向があるので、手立ての工夫が必要と考える。 日本スポーツ振興センター給付金申請の手続きをする生徒は、昨年度に比べて増加している。今後も速やかに処理をして、早期に給付金を受けとれるよう支援の充実を図る。			

令和6年度各部署の中間評価

報告書

部署名	図 書 教 育	責任者名	植田 梨絵子
(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ①学校司書と協働した図書室の運営管理の充実 学校司書(紀伊国屋書店)と学校司書教諭が密に連携を図り、イベントの計画・実施・振り返りなどを徹底し、安定した図書室運営を目指している。 ②書籍の充実 選定の期間を短くして、購入分を分散化させ、常に目新しい書籍があるように進めている。表に出す本が新しいものばかりではなく、興味を持ってもらいたいテーマをその都度決めて、特集を組んで、古い書籍でも価値のあるものを前面にアピールしている。 ③委員会を主体とした読書啓発活動の推進 司書とのコミュニケーションを図ることが浸透してきたので、発展的な啓発活動も提案していきたいが、行事との調整が難しいのが現状である。 ④図書室行事や利用者向上のための広報活動 広報ポスター(校内7か所)の掲示、UTLibraryNews(生徒・教職員・保護者)の配信、Instagramの配信、授業活用による利用者の促進など積極的な利用を促している。			
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・OPAC利用や蔵書管理システムの有効活用 詳細検索ができるよう書籍の踏力情報の見直しや追加・削除を常に更新していく予定である。 ・公的図書館や近隣大学との連携 近隣図書館とコミュニケーションを図り、生徒も地域への参加を図書室から提案していけるよう図書委員を中心に考えていきたい。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 まだまだ校内の図書教育活動の認知がまだ低いと感じるため、さらに読書活動や図書室利用を積極的に啓発していく。「魅力ある図書室」として他校の事例や出版業界、書店の情報などを集約させ、効果的に活用したい。また、地域とのつながりや保護者・教育関係者を通じた交流も深めていき、「図書室の魅力」だけでなく、読書への興味関心・学校の特色になりうるよう発展させていきたい。			

令和6年度各部署の中間評価

報告書

部署名	広 報	責任者名	湊 昭嘉
(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ・次年度生徒募集につながる広報物の発行 ⇒入試対策部と連携のもと、必要な時期に必要な広報物が完成できるような計画を立ててきた。事前の打ち合わせを重ねることでポスター、学校案内、三つ折りリーフレットなど予定通りに作成することが出来、概ね遂行出来ている。 ・ブログの更新回数やSNSを活用した効果的な広報活動の検討・実施。 ⇒行事に関しては、内容の詳細が分かる文章と写真をアップして充実を図っているが、滞ることもあるので広報内で分担をしてリアルタイムに情報を発信していきたい。 また中学生ユーザーが多い公式インスタグラムでは、生徒会役員生徒が主導となり、生徒目線で学校情報も発信しており、一定のフォロワー数を確保している。 ・近隣地域に向けた広報活動の充実。 ⇒毎月太子町の広報誌に広告(イベント情報)を掲載し、地元太子町へのPR活動を行っている。			
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・学園財政を鑑み、広報効果が低い紙媒体や説明会ブースを削減し、広報費用のコスト削減を図る。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 学校案内、ホームページ管理において、アプリスと連携を図りながら作成を進めている。今後の入試説明会、入試本番の動向を見極めながら次年度につながる広報戦略について共有認識のもと、共に完成度の高い仕事をしていきたい。			

令和6年度各部署の中間評価

報告書

部署名	事務室	責任者名	松井 保
(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ① 生徒・保護者・教員とのコミュニケーションの充実 これら3者をしっかり繋ぐ重要な役割をしっかりと果たすことができていると思う。生徒全員がiPadを持ち、ブレンドといったアプリの使用により、生徒・保護者と教員との直接のやり取りが増え、役割が減少しているようにも見える。しかしながら人と人のつながりにおいてはデジタルでは出来ない部分があり、この部分こそ大切であると思われるので、引き続き齟齬の無いコミュニケーションが取れるよう気を引き締めて取り組みたい。 ② 企画・運営に関する事務 オープンキャンパスや入試説明会、上宮祭などにおいて様々な企画が挙げられ事務室にも相談がある。経費を抑えながら効果の上がる方法を提案するなど、一定の取り組みが出来ているが、今後ともさらに質をあげるべく日々情報収集にも取り組む必要あると考えている。 ③ 校内・教育環境のさらなる整備 この夏休みに4期に分けて行われてきた外壁・屋上のメンテナンスが終了した。これを受け、今後はさらに校舎内の整備に注力したい。			
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 少子化の中、存在意義のある学校として生き延びるため、様々な企画に関与・提案を行うための研鑽を積みたい。また、施設面においても継続してメンテナンスを行い、魅力ある施設運営を目指す。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 本校は太子町から避難場所として指定されており、災害時に果たすべき役割も大きい。実際に災害が起こった際には生徒・教職員の安全を最優先としながらも地域の方々の手助けができるよう、日頃より自治体と連携をとり災害に備えたい。			

令和6年度
学校評価に関する
各部署の総括

上宮太子高等学校
学校評価委員会

部署名	教 務 部	担当者	田中 良和
-----	-------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

（短期目標） ※本年度に取り組む目標 ・ 教務クラウドシステム（ＢＬＥＮＤ）の円滑な運用 ・ オープンキャンパス、入試説明会等の生徒募集に繋がる行事の精査と更なる充実 ・ 労働時間の遵守及び就業システムを円滑に運営するため、事務所・総務との連携 ・ 考査規定、観点別評価等の教務内規の再検討 ・ 不登校生徒に寄り添うための ICT 機器等を用いたオンライン授業による単位認定の検討
（中・長期目標） ※数年計画で達成したい目標 ・ 教務内規の再検討 ・ 国際理解教育の推進 ・ 有効な指導体系の継続検討

2. 令和6年度の実行計画 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
（1）教務運営システムの整備・効率化 ①学校行事の確実な実施と改良 ※入念な準備、実施要項作成 ※実施資料(改善点等記録含)の整理・保存・次年度への引継ぎ等 ②教務各係の業務内容の点検・整備 ③教務内規の精査・改定・整備 ※確定規定の明文化と職員周知 ④教務クラウドシステムの円滑な運営	B	B	①各部署との連携を図り、先生方の協力のもとで学校行事を円滑に進めることが出来た。実務面で出た課題改善に向けて、更に内容の充実を図りたい。
（2）有効な指導体系の継続検討 ⑤全学年新カリキュラムの導入期における校内整備 ⑥ICT の導入による新しい教授法の検討	B	B	②業務を明確化し、点検・整理を行った。
	B	C	③3年生の仮評定基準等、大学入試の現状に応じて微細な改良を図った。
（3）国際理解教育の推進 ⑦社会の動きに併せながら対応をしていく	B	B	④「ＢＬＥＮＤ」導入3年目となり生徒・保護者・教職員に定着しつつある。
	B	C	⑤観点別の評価方法や調査書発行においてこれからも改良が必要である。
（4）「朝の学び」の状況把握と調整 ⑧進路指導部と連携のもと運営する	B	B	⑥各教科で検討を図っている。
	B	A	⑦オンライン英会話に加え、コロナ禍後々々となる海外語学研修（フィリピンセブ島）を実施することが出来た。
（5）不登校生徒に寄り添うための ICT 機器等を用いたオンライン授業等の単位認定の検討	C	C	⑧学年によって実施状況にバラつきがあり、次年度に向けて改善が必要である。
	B	B	⑨起立性調節障害等配慮を要する生徒のために校内の支援システムが確立され、運用が出来ている。

※**遂行度**： 各項目の進捗状況 / **達成度**： 各項目の達成・評価状況

※**評価基準**： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

・ 入試説明会に関しては内容・見せ方共に今年度大きく改善を行った。クラブ活動応援制度や高等学校授業料無償化の影響もあり、令和7年度入試においては定員充足率100%を達成した。本校を進学先として選んでくれた生徒・保護者のために、受け入れた生徒・保護者の満足度向上が今後の課題である。 ・ 「朝の学び」については、各学年の状況に応じた内容となっており、学校全体で統一したものを確立することが出来なかった。今後も朝の10分の使い方を、進路指導部と連携しながら運営方法を検討していきたい。 ・ 内規において大学側が求める評定値と本校の評定基準に齟齬が見られる。また新カリキュラム導入に伴う観点別評価の3観点の評価方法についても再検討が必要である。

部署名	生徒指導部	担当者	尾山 友昭
-----	-------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標			
生活指導	1. 校訓「正思明行」・学順の実践、規範意識の向上	2. 生徒指導の推進と問題行動の予防強化	
	3. 道徳意識、規範意識の向上（頭髮服装検査強化）	4. 生徒の愛校心向上	
生徒会	1. 生徒会活動の活性化	2. 委員会活動の活性化	3. 広報活動
			4. クラブ活動の活性化
教育相談	1. 教職員への啓発・発信	2. スクールカウンセラーと教職員との連携	3. 教育相談室の活用
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標			
生活指導	事故がなく安心して生活できる学校づくり		
生徒会	生徒主導による各種活動		
教育相談	悩みをもつ生徒が、楽しく学校生活が送れるようにする。		

2. 令和6年度の実行計画 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
生活指導			
1. 校訓「正思明行」・学順の実践、規範意識の向上のための取り組み	B	B	1, 身だしなみ指導実施し規範意識の向上に取り組んだが指導しなければならない生徒が後を絶たない現状がある。
2. 教員による一律指導を目指し、実践内容を改訂・明確化 大阪私学連盟で得た情報を校内に生かす取組みの実施	B	B	2, 私学生徒指導連盟で得た内容を部分的には校内に生かすことが出来た。
3. 身だしなみチェックを実施し、生徒心得遵守を促す	A	B	3, 身だしなみチェックを生徒指導部で行う事で基準が一律化された。
4. 生活委員会の活動を活性化	C	C	4, 実施回数不足の為、次年度の課題
5. 生徒指導部会議の開催	A	A	5, 可能な限り定期的に開催することが出来た。
生徒会			
1. 生徒が主体的に動ける行事の運営・学校づくり（体育大会・上宮祭運営、生徒議会の開催、規範意識の向上等）	B	B	1, 40周年の節目になる行事について生徒がある程度前に立ち進んできた。
2. 委員会活動の活性化	C	C	2, 各委員会があまり動いていなかったように感じる。
3. 広報活動（入試説明会・オープンキャンパス・地域行事参加・リーフレットの作成）	B	A	3, 生徒会が率先して広報活動に関わった。
4. クラブ生を主体とした学校の活性化	B	B	4, クラブ生が中心となり、学校行事を盛り上げた。
教育相談			
1. 研修会への参加、そして報告 「不登校を考える会」等からの資料プリントの配布	B	B	1, 生徒指導部以外からの研修会への参加もあった。
2. カウンセリング希望者との日程・時間等の予約の調整 カウンセリングを受けた生徒（保護者）の状況を把握 スクールカウンセラーによる教職員への研修会開催	B	B	2, 日程調節、時間の調整はできたが教職員との研修会が実施できなかった為、次年度への課題となった。
3. 担任・学年・係を中心に取り組む	B	A	3, 担任学年団と協力して取り組むことが出来た。
4. 不登校・配慮を要する生徒の把握と適宜の対応を検討	B	A	4, 把握と適宜の対応はできた。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

時代の流れとともに、変えることが出来るルールにおいては積極的に改定していく一方で、清楚で関連な生徒を育てる為に必要だと思われるルールにおいてはしっかり検討し残していき、全教職員が一律で生徒に寄り添う指導が出来るように教員間の意思疎通をしっかりととり、生徒が安全に安心して学校生活が送れるよう努める。

部署名	進路指導部	担当者	福田 和憲
-----	-------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月28日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標		
I. 進学実績の目標達成	II. 基礎学力の向上	III. 「iPad が動く学校」の展開への意欲的な挑戦
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標		
IV. 主体性を育む教育	V. 戦略的改革	

2. 令和6年度取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
【学習指導関係】			
I. 進学実績の目標達成（高校3年）			
a 国公立大学10以上合格	A	A	国公立大学については、最後まで粘り強く取り組んで頂いた事で成果が出た。（現役11） 関関同立についても、特進Ⅱ類コース上位2名の頑張りで目標は達成出来た。（現役20）
b 関関同立17以上合格	A	A	
c 産近甲龍88以上合格	C	D	
II. 基礎学力の向上（高校1年・2年）			
d 進研模試偏差値52以上を学年の1割以上	C	C	しかし、産近甲龍については特に英語力の不足が大きく響き、合格数は前年度の半分以上と厳しい結果となった。（現役35） 実際、進研模試偏差値についても毎年目標を達成していないにも関わらず、結果については学年任せになっている部分を早急に改めないとならない。特に教員が「自走」の内容をはき違える事のないよう、生徒達が自分たちで動き出せるまでの課程においては、熱心で丁寧な指導への啓蒙は続けて行くべきである。
e 進研模試偏差値46以上を学年の3割以上	C	C	
f スタディサプリ活用による成績向上	C	C	
g 「自走」の推進と教員の関わりの指導	C	C	
【ICT教育推進関係】			
III 「iPad が動く学校」の展開への意欲的な挑戦			
h Microsoft のプラットフォーム整備	B	B	探究活動については、今年度も大きな成果は見られなかった。来年度から探究専門チームに授業を任せることで、学校全体の探究への意識を根本から変えていきたい。
i iPad の新しい使用法の模索	B	B	
j 教員の iPad 使用を進める	C	C	
k 緊密な情報共有による相互サポート	C	C	
【探究関係】			
IV. 主体性を育む教育			
l 探究活動の推進（高校1年・2年）	C	C	
【全体】			
V. 戦略的改革			
m 生産性の高い進路指導体制構築	B	B	同じく、スタディサプリを含め、リメディアル教育を中心とした教科指導への介入も積極的に進めることで、現状の学習について生徒も教員も「上手く行かない」部分を打破していきたい。
n 教科への新学習指導要領への対応と啓蒙	B	B	
o 先生方を巻き込んだ学校全体の意識改革	C	C	

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：A 予定通り進んだ / 顕著に成果があったB ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでないD 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

【 来年度の方針 】
探究チーム ・探究活動について、生徒達が課題に向き合い、考え、解決する形の学びを目指す
ICT チーム ・生成 AI の教育への活用を研究、先生方のリテラシー向上、授業への活用を目指す
学習指導チーム ・産近甲龍の合格層を増やすべく、特に英数についての取り組みを特化する。 ・スタディサプリの使用促進を含め、生徒への啓発を増やす事で意識改革につなげる
この他、「非認知能力の評価」についての研究を進め、本校が近年中に本格的に向き合うべき課題に対して準備を始める。また、引き続き先生方への「双方向授業への啓発」を続けて行く。

部署名	入 試 対 策 部	担当者	佐々木 哲也
-----	-----------	-----	--------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標			
(1) 入学者数確保に向けての広報活動	(2) 効果的な広報物を制作・活用	(3) 情報の収集・共有化	
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標			
受験者数の安定的確保			

2. 令和6年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1) 入学者数確保に向けての広報活動 入学者数 200 人を目標。募集定員 175 人を確保するためには、より多くの保護者、生徒、塾・中学の先生に、上宮太子の名前と良さを案内し、校内に足を運んでもらい上宮太子の魅力を感じて専願で受験してもらうことが必要。 ①受験生や保護者に直接的にアプローチをする。 できるだけ多くの外部ブースに参加し、中学・塾においても生徒・保護者対象説明会に参加させてもらえるよう働きかける。 ②校内に足を運んでもらうことが一番大事なので、校外説明会で会った生徒・保護者に対して、是非とも校内説明会や学校見学に来てもらえるよう働きかける。 ③ オープンキャンパスで人数を確保し、早い段階で太子を気に入ってもらい専願者を増やす。	A	A	(1) ①②③ 中学や塾において、在校生の普段の様子やクラブ活動の様子、また進路・大学合格情報などをこまめに伝えることで、生徒を安心して預けていただけるようにした。 校外での説明会においては、多くの先生方に参加していただき、活気があって、先生方の仲が良い上宮太子をアピールすることができた。 校内行事においてはオープンキャンパスⅡが実施されていたら、過去最高の 1100 人以上の受験生が校内に足を運んでくれたこととなっていた。
(2) 効果的な広報物を制作・活用 上宮太子への興味関心を持ってもらうには、ホームページやパンフレット、リーフレットなどが重要となる。広報係との連携のうえ効果的な広報物を制作し募集活動に活用する。 ①早い時期から二つ折りリーフレットやオープンキャンパスリーフレットを主要な中学の全生徒に配布することで上宮太子に対して興味を持ってもらう。 ②高1生の紹介写真を、母校の中学に持参し掲示してもらい、後輩たちに見てもらうことで興味を持ってもらう。	A	A	(2) ①② 広報物については、二つ折りリーフレット、オープンキャンパスⅠリーフレット、行事リーフレット、クラブ応援リーフレット、ネクタイリーフレット、出前授業リーフレットなど、その時期に応じて必要なものを追加し配布することで効果的な広報活動ができた。 上宮祭のチケットを近場の中学校やオープンキャンパスⅡ欠席者にも配布したことで、笑顔いっぱいの子供たちの様子をみってもらうことができて受験にも繋がったと思われる。今年も中学ごとに1年生のコメント付きの写真を作成し各中学校へ持参することで、多くの中学生に先輩の楽しそうな様子を見てもらえるようにした。知ってる先輩が通学しているということで安心して受験してくれた。
(3) 情報の収集・共有化 世間のニーズに合わせて、上宮太子の良さをアピールし、効果的な広報活動をする必要がある。情報収集と情報の共有化を図り、クラブ応援制度のクラブ顧問および教職員一丸となって広報活動が行えるようにする。 ①校外で知り得た情報を定期的に先生方へ伝え、校内では生徒たちの様子や、日常における些細な行動などの情報をこまめに収集し塾・中学に伝え、面倒見の良さをアピールする。 ②上宮高校や上宮学園中学校との情報共有を進展させ、3校で連携をとり、学園全体で広報活動を行う。	B	B	(3) ①② 渉外活動において知り得た情報については、入試対策部内で共有化を図り、各学年、担任、担当者、プロジェクト会議にもすみやかに伝えするようにした。

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

今年度も更に授業料無償化の流れが受験生の親御さんに浸透されていたことにより私学専願率が増え、公立高校の5割の学校が割れてしまった。来年度は国の無償化政策の話もプラスされて、奈良も含めて大阪の私学専願率ももっと増え、私学の中でも人数確保のできる学校とできない学校の二極化が進むと思われる。上宮太子の今の流れをしっかりと掴んで、在籍生徒の満足度アップと上宮太子の魅力を多くの受験生に伝え校内に足を運んでもらい、生徒・先生方と交流を深めてもらうことで上宮太子を選んでももらえるようにする。

部署名	国語科	担当者	八内 宇弘
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ・新課程教授法の研鑽 および共通テスト、私立大学入試研究の継続的な研鑽 ・ICT 機器を活用した、生徒との双方向のやりとりを実現する授業形態の模索 ・生徒たちが国語を積極的に学びたいと思えるような「生徒目線」での関わり
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・共通テスト平均点 (特進Ⅰ類) 文系7割5分、理系6割5分以上 ・国語科全教員による、新課程の指導要領に沿った双方向のやりとり、表現力の育成を中心とした新しい授業形態の確立および共有

2. 令和6年度の取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1、授業改革による生徒の読解力・表現力の向上 ① 生徒の学習定着をはかるための方策研究 ② 読解トレーニングと読解力向上への取り組み ③ 職員同士での国語力向上についての意見交換 ④ スタディーサプリの積極的な活用	B	B	教科横断型授業への取り組みは実践できなかったが、教員同士でのコミュニケーションを取る機会は非常に多く、建設的な意見交換ができた。
② 読解トレーニングと読解力向上への取り組み	A	B	
③ 職員同士での国語力向上についての意見交換	A	A	
④ スタディーサプリの積極的な活用	B	B	
2、各学年での学習指導内容の研究 ①特進Ⅰ・Ⅱ類 模擬試験・大学入試問題等を使用して生徒の到達度を確認 →共通テスト、国公立の大学入試に即応できる実力養成 難関私立大学への進学を視野に入れた実力養成 ②総合進学 →推薦入試への対応 小論文対策 →公募制推薦・一般入試に向けた対策 学習指導内容の改善 新学習指導要領に向けた授業改革 →アクティブラーニングの研究、授業への導入 →ロイロノートを軸とした、iPad 活用法を研究した授業展開	B	B	国公立大学の合格を含め達成できたと思う。
②総合進学	B	A	
3、教員の研修活動への参加、教科へのフィードバック ① 予備校・大学主催の研修会などへの積極的な参加 →入試の現状把握、教員のスキルアップ ② 教科への研修活動のフィードバック →教科会での参加活動報告 ③「新課程研修会」「記述講座」「研究授業」など、教科内の教員による勉強会の実施	A	A	概ね達成できた。
② 教科への研修活動のフィードバック	B	A	
③「新課程研修会」「記述講座」「研究授業」など、教科内の教員による勉強会の実施	B	B	

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：A 予定通り進んだ / 顕著に成果があったB ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていないD 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

・生徒が主体的に取り組む姿勢をどう養うべきかを教員同士のコミュニケーションを取り、全体で考える必要がある。 ・研究授業の回数を増やし、国語科全体の指導力向上を行う。 ・従来の教授法に頼ることも大切だが、新課程に対応できるような新たな教授法を創る。 ・ICT 活用による授業活性化の方法を探る。

部署名	社 会 科	担当者	前田 良仁
-----	-------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 (1)授業の厳正化と社会科としての強化 (2)教科会の活性化 (3)入試問題の研究 (本校入試問題及び大学入試問題) (4)新カリキュラムへの対応と共に ICT の活用の在り方の研究
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 新カリキュラムへの対応と共に ICT の活用の在り方の研究

2. 令和6年度の実行計画 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1) ①「立腰」から始まる授業に集中できる雰囲気づくりをする。 ②社会科の授業が好きになる工夫をする。 ③高校において、特進コースは平均偏差値 60 以上、総合進学コースは平均偏差値 50 以上をめざす ④授業アンケートを意識した授業を実施し、総合評価で 80% を上回る。 ⑤社会科に関する研修会などへの積極的な参加。 ⑥高校3年生における社会科を入試で捨てさせない意識付け。 (2)①教科会の可能な限りの実施と科目間の連携。 ②授業見学会実施 ③思考力・判断力・表現力を意識した、新課程研究を始める。 (3)①大学入試制度改革に向けた上宮太子高校の入試問題にふさわしい内容にするための研究。 ②大学入学共通テスト、難関私立大学等の入試問題を研究し、高得点につながる科目担当者による研究。 (4)①新カリキュラムへ向けての研鑽 ②ICT の活用の在り方を研究していく。 ③新教科(歴史総合や探究)への対応	A A B A B B B B A A A A A A A	A B B A B B A B A A A A A A A	授業に関しては各担当者がしっかりと研鑽を積み重ねつつ、授業を展開したため、授業アンケートも評価が高く、生徒たちの反応も良い。 ただ、去年と同様、入試に関しては、特に総合進学において、社会を捨ててはないが、最終的に入試に使わず、公募制入試までで入試が終わり、特進など一部の生徒しか入試に使わない現状は否めない。その特進においても、二科目受験が関関同立大でもあり、社会をつかわず合格もあり得るのが現状である。 教科会においては、今年度、二学期に教科会における研修会並びに授業見学会を予定していたが、個々で行い、来ていないのが現状である 歴史総合などの新カリキュラムなどの対応、並びに研究に関しては外部の業者などにも情報を求めた結果、十分な情報を得られたと思われる。ただ入試の結果としては、共通テストの受験者は世界史探究のみであり、結果は限定的である。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

来年度は新カリキュラムの内容も精査しつつ、受験対応を行いたい。 特進コースの者が、来年度は世界史探究だけでなく、日本史探究も初めて受験するため、歴史総合の中身が日本史不利の状況をどう打破するかも課題である。

部署名	数 学 科	担当者	藤 原 稔
-----	-------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 1. 授業の厳正化 2. 数学力の向上 3. 教科会の活性化 4. 研修への積極的な参加
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 1. 特進Ⅰ類，特進Ⅱ類，総合進学各コースにおける指導方針の統一 2. 理系進学希望者の増強 3. 理系大学進学率の向上

2. 令和6年度の実施内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1. 授業の厳正化 ①個々のより深い教材研究と教材の共有 ②研究授業の実施 ③各コースの特性を見据えた指導計画と実践 2. 数学力の向上 ①家庭学習定着のための内容・量の適正化と推進 ②各学年の偏差値2ポイントアップを目指した模擬試験対策およびやり直しの徹底 ③特進Ⅰ類コースの国公立大合格率向上 ④特進Ⅱ類コースの関関同立大学合格率向上 ⑤総合進学コースの一般入試合格率向上 （指定校・学校推薦型入試を有効活用するとともに、一般入試に対応できる学力をつける） 3. 教科会の活性化 ①連絡の徹底と教科内の共通認識 ②教科における情報交換と研修 4. 研修への参加 ①アクティブラーニングやICTについての研修を受け、教授法を学び教科会で検討、導入していく。 ②新学習指導要領によるカリキュラム構成、評価方法を研修し、各コースの最適な授業実践計画を検討する。	A D A B B B C B B B C C C C C	A D B B C C A B B D C D D D	・各教員が積極的に行っていた ・実施できていない。 ・概ね達成できていた。 ・コースに応じた課題に取り組む事が出来た。 ・概ね達成できていた。学年によって差が生じた ・きめ細かくすることは出来ていない。 ・研修に参加することは出来ていない。 ・各コースとも模擬試験対策などに時間を費やすことはできた。成績の向上が満足いく結果になっていないが継続的な指導を続けていきたい。 ・教科会が連絡会に終ることが多く、満足のいく教科会にはならなかった。 ・教員の指導力向上が必要であったが、研修会などに参加することが出来ていなかった。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準：
A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない

B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

教科として、月に一度研究授業を行い、教員同士でスキルアップしたい目標があったが、今年度は行うことが出来なかったので、次年度への課題とする。教材研究を深め、教員同士の意見交換の場を積極的に持ちたい。

部署名	英語科	担当者	今塩屋 誠
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 教師が楽しんで授業すること (生徒が楽しむことに繋がる)
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 模試成績を総合進学コースは<u>入学した時より落とさない。</u> 特進コースは毎回2ポイント上げる

2. 令和6年度取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
・①英語力の向上にむけて ロイロノートなどを使ってこまめに予習のノートチェックをします。 復習のための小テストを総合進学クラスでは単元終了毎に1回程度、特進クラスでは、<u>ほぼ毎回</u>実施します。 それを平常点に加味します。 セブ島のオンライン英会話を1、2年生全クラスに導入していますが、授業でも<u>音声</u>を重視した指導をします。<u>特に1、2年生は ELSA を毎時間活用する。</u> 辞書を授業中に<u>毎回</u>調べさせて、活用します。 ② 生徒の実情に合わせて、模試に対応できる教材を発掘すること。 ③ 特進I類では共通テストの全国平均をリーディング、リスニングとも超えること。 ④ <u>研究授業を全員行い</u>、授業改善とレベルアップに取り組む。	A C B C	B D C D	予習をほとんどの先生が課してくれていたと思います。 先生方により様々でしたが、特進クラスでは概ね実施できました。 授業中の音声活動が少ないクラスはオンライン英会話でもただイエス、ノーだけ答えていることも多いようです。 先生方により様々でした。 研究授業には十分に時間を割くことができなかった。

※**遂行度**: 各項目の進捗状況 / **達成度**: 各項目の達成・評価状況

※**評価基準**:
A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない

B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

全体的に英語の力が弱い生徒も多く、中学での内容が定着していない場合も多い。 高校での教科書・教材を扱うことはもちろん、少し戻って基礎固めにもう少し時間を割く必要がある。 英検の取得状況も今後の進学実績に今まで以上に影響してくることが予想されるので、検定取得も意識した授業づくりをする。

部署名	保健体育科	担当者	内藤 哲也
-----	-------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ・ 集団行動を通じて、社会生活に適応できる姿勢・礼儀などを習得する ・ 各種スポーツを通じて、技能向上と体力作り・協調性を習得する ・ iPad、ロイロノート、デジタル教科書を活用した授業の研究・実践
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・ ICT 機器を利用した視覚化授業の実践

2. 令和6年度取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
時間を守る 授業開始時間に遅れない	A	A	概ね授業開始時間は厳密に守れた。
集団行動の様式の習得と実践（静と動） 挨拶・姿勢・集解散・方向変換・ラジオ体操	B	B	クラスにばらつきはあるが全体的に規律ある授業実践ができた。
服装を正す 忘れ物を無くす・腰パン・半袖シャツを出さない・体操帽着用	B	A	1年生で体操服忘れが多いクラスあり、なかなか改善できなかった。
各種目の技術習得 個人技能と集団技能	C	B	種目により技術向上の差が大きく、生徒の達成感を感じさせる必要あり。
運動することの必要性、大切さ 生活習慣と生涯健康の関わりを理解する	B	B	日々の授業の中で伝えられたところはあった。
各種目のルールの理解 ゲームの運営・ルール習得	B	B	座学を通してルール理解に努め、成果はあったように感じる。
I C T の導入 iPad、ロイロノート、デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践していく	B	B	種目によって iPad の使用頻度が違った。保健でデジタル教科書等の活用もできた。
心肺蘇生法の習得 胸骨圧迫・AED 使用方法	A	A	高1学年において実施し、最低限の知識は習得できた。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

・ ICT の活用をさらに進める ・ 規律ある授業を目指し、さらなる決め事の徹底 ・ 生徒の体力・技術向上に向けてカリキュラムの再考 ・ より客観的な成績の出し方を工夫

部署名	芸術科	担当者	渚 昭嘉
-----	-----	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 1. 各行事への協力、取り組み。
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 2. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。 3. 評価、評定について協議する。

2. 令和6年度の取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1. 行事への協力、取り組み。 ① 聖徳書道展への協力。 ② 芸能鑑賞等、教務部との連携。	A	A	・ ①においては、入選の賞状を早く書き上げ、賞品と共に発送できた。 2回目の体育館での展示およびパフォーマンスも良かったと思う。 来校者数も今まで以上に多かった。
2. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。 ① 表現力を伸ばすための基礎技術の指導、および基本的な知識をつける。 ・ 音楽 演奏（器楽、声楽）の基本技術の指導。 音楽史の学習。 ・ 書道 楷書、行書における用筆法の指導。 書道史の学習。	B	A	・ 音・書とも、それぞれ工夫を凝らした実技指導を行った。 各科目に多少の人数差はあるものの、少人数での授業となったため、一人ひとりの生徒への指導が行き届いたと感じられる。
3. 評価、評定の方法について協議する。 観点別学習状況の中で「知識・技能」、「思考・判断力・表現」についての研究。	B	B	・ 観点別学習状況評価を行っている。 ただ、「知識・技能」と「思考・判断・表現力」に分かれているため、作品から判断するのに難しいところがある。 継続して協議していきたい。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

・ 芸術（Iのみ）で何を学ばせるのか再度考えたい。 ・ 評価についてどうあるべきか、そして観点別学習状況評価の中で「知識・技能」、「思考・判断・表現力」について各科目ごとにより明確に出来るように継続的に考え。
--

部署名	家庭科	担当者	植田 梨絵子
-----	-----	-----	--------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ① 家庭科に対する学習意欲の向上・発展 ② 実践的・体験的な活動を意識させ、生活を改善する意欲と態度を育成 ③ ジェンダーレス社会の教育推進 ④ 教材の見直し・整備 ⑤ タブレット学習の実施計画
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・生活全般の興味関心を高める教材や授業のアップデート化 ・自己のライフデザインを自主的に進められる人材育成

2. 令和6年度の実施計画 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 家庭科に対する学習意欲の向上・発展 ・新学習指導要領の内容を深め、関連した資料や情報を添付する。 ・課題の未提出者等は催促し、必ず提出させる。 ・他教科（主に現代社会）にも通じるような授業を展開する。	A	B	・考査で点数をとれるようになると、授業に対する意識も上がり、意欲向上が見受けられた。また、個別に授業終わりに質問してくるような生徒もあり、安定した成績をとれるようになっていた。
② 実践的・体験的な活動を意識させ、生活を改善する意欲と態度を育成 ・ものづくりの体験的活動を通して、家族の人間関係や家庭の機能を理解させる。 ・生活に必要な基礎的・基本的な知識・技術を身につけさせ、生活を工夫し創造する能力を育成する。	B	B	・生活の質の向上（QOL）を目指し、知識をつけることによる効果などを伝え、自ら実践できるよう促した。苦手な分野（裁縫）を抱えている生徒も多かったが、一人ひとりと向き合うことで、自信を持てるよう声がけをし、最後まで取り組めるようになった。
③ ジェンダーレス社会の教育推進 ・自己肯定感を高め、共に協力し、助け合えるよう自立を促す。	C	B	・ジェンダーギャップにあまり抵抗のない世代だが、「当たり前」の概念が根深いことは想定できるので、引き続き確認をしていくべきだと感じている。
④ 教材の見直し・整備 ・環境に配慮し、主体的に生活を営む能力を育てるため、自ら課題をみつけ、展開できる問題解決を図る教材を検討する。 ・情報化に対応し、生活と家庭科との関わり、情報手段の活用内容の充実を図る。	B	B	・指導の中で、時代に合わせた必要な知識や技術をもう一度精査し、家庭科教育の幅広い学習域を上手く授業に取り込めるよう、常に改善を加え、より身近なものとして、家庭科に取り組んでいけるような授業展開を考えていきたい。
⑤ タブレット学習の実施計画 ・教科で活用することで、デバイスの操作に慣れることや意見の共有や刺激を受けるよう、デジタルでのアウトプットの回数も増やす。	B	B	・デバイスの利用が目的にならないよう、有効な活用をさまざまな先生と共有し、アップデート

※**遂行度**： 各項目の進捗状況 / **達成度**： 各項目の達成・評価状況

※**評価基準**： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

全クラスを担当するメリットを生かして、教材研究や授業研究を進めていきたい。そのために他教科の要素も取り込んだ学習や単調にならないように教材を精査していく必要がある。また、家族員に協力をしてもらえようような課題を設定することで、実生活に生かせる知識や技術の習得を意識させるよう促していく。金融教育をさらに深められるよう、情報収集をし、新しい視点を常に持つよう研究していきたい。 自立に向けて率先して動けるようになっていたり、自己肯定感を高められたりできるよう、生徒とコミュニケーションを図り、言葉がけを大切にしていく。
--

部署名	情報科	担当者	須藤 秀裕
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標
① より良い授業内容にするための検討
② 新学習指導要領における教材研究
③ 大学入試制度改革に関する情報収集
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標
④ 大学入試科目への対応

2. 令和6年度の実行計画 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
・ ① より良い授業内容にするための検討 a iPadを利用した実習課題の研究 b 教科書に準拠した補助教材の研究	B A	B A	・ 一定の成果はあった。 ・ 十分な成果があった。
② 新学習指導要領における教材研究 c プログラミング教育に関する教材研究 d カリキュラムを含めた授業計画案の検討	B C	B C	・ 一定の成果はあった。 ・ 十分とは言えなかった。
③ 大学入試制度改革に関する情報収集 e 「情報科」大学入試導入に関する情報収集 f 「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加	C C	C C	・ 十分とは言えなかった。 ・ オンラインでの参加しかできなかった。
④ 大学入試科目への対応 g 共通テストに関する情報収集 h 共通テストへの対策	B B	B B	・ 一定の成果はあった。 ・ 一定の成果はあった。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

① より良い授業内容にするための検討
② 新学習指導要領における教材研究
③ 大学入試制度改革に関する情報収集
④ 大学入試科目への対応

部署名	宗教科	担当者	柴田 直毅
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ①校訓、学順の理解 ②授業内容のさらなる充実 ③宗教行事の理解と実践
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ICTを活用した授業の実践、自ら考えを論述、表現できる力の育成

2. 令和6年度取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
・			
① 校訓、学順の理解 (1) 授業を通じて「挨拶」の実践を徹底する。	B	C	クラブ活動では挨拶ができているが、日常での挨拶はまだ声が小さい、元気がないように感じる。
(2) 礼儀作法について学習、実践をする。	B	C	
② 授業内容のさらなる充実 (1) 授業開始時の一枚起請文奉読を徹底する。	B	B	担当するクラスにより合掌、奉読、十念の実践に違いがある。生徒なりに努力して称えています。
(2) 生徒の理解に適した授業を展開する。 アクティブラーニングの実践	B	B	
③ 宗教行事の理解と実践 (1) 授業において宗教行事の由来、意義を学習する。	B	B	生命の尊さを考え、生きること、努力することを考えさせました。論作文にもその成果が見れました。
(2) ICTによる授業、宗教行事の理解	B	B	
			正当御忌式について、命日などを学習、理解できました。
			ロイロノートを活用して、生命のつながり、ご縁について考えをまとめ、提出させた。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

生徒たち自ら考え、学習する授業を展開していきたいです。ICTを活用した教材を検討していきます。 生徒はタブレット、スマートフォンなどのツールにより、他人と関わることが得意でない傾向にあります。 自分だけでなく、友達、家族、社会の中で共に生きていく、生かされていくことを理解させたいです。

部署名	高 1 学 年	担当者	茶田 昌蔵
-----	---------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 (1)「正思明行」、学順の実践とメリハリのある指導 (2)生徒・保護者・教員の意思疎通 (3)学力向上（特に英語、数学、国語）のための方策と学習習慣の確立 【目標：特進Ⅰ類コース（偏差値 60 以上）、特進Ⅱ類コース（偏差値 55 以上）、総合進学コース（偏差値 50 以上）】 (4)担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 (1)個々の将来の目標設定・目標を意識した進路指導の実践 (2)社会の一員であることの意識の定着（デジタル社会を生き抜く力の養成）

2. 令和6年度取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1)①法然上人の教え・校訓「正思明行」・学順を意識した生徒指導	A	A	概ね達成できた
②思い出に残る学年行事と充実	A	A	概ね達成できた
(2)①家庭と学校との綿密な連携	A	A	概ね達成できた
(3)①勉強に集中できる学級の雰囲気作り	C	C	概ね達成できた
②毎日の家庭での学習の習慣の確立	B	C	個人差がある
③定期考査前の補習の実施	A	A	概ね達成できた
※総合進学コースの目標			
①模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値 50を目指す	C	D	今後の課題が多い
※特進Ⅱ類コースの目標			
①模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値 55を目指す	B	C	今後の課題が多い
※特進Ⅰ類コースの目標			
①模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値 60を目指す	B	C	今後の課題が多い
(4)①学年担当者会議の可能な限りの実施	A	A	概ね達成できた
②日常の会話による生徒の情報交換	A	A	概ね達成できた

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：
A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった
B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない
D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

高2学年となり、気持ちに緩みも出だが、もう一度気を引き締め直して、学業と部活動に頑張る姿勢を育む。 行事・企画をしっかりと目的をもって練り、実行できるようにする。 将来の目標、進学先を考える時間を多くとり、高校3年生にスムーズに移行できるように指導する

部署名	高 2 学 年	担当者	松井 康浩
-----	---------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 (1)「正思明行」、学順の実践と人間力の向上、「明るく、正しく、仲良く、そして厳しく」を意識した指導 (2)生徒・保護者・教員の意思疎通 (3)学力向上（特に英語、数学、国語）のための方策と学習習慣の確立 【目標：特進Ⅰ類コース（偏差値 60 以上）、特進Ⅱ類コース（偏差値 55 以上）、総合進学コース（偏差値 50 以上）】 (4)ICT 機器を利用した教授法の研究・推進 (5)担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 (1)個々の将来の目標設定・目標を意識した進路指導の実践 (2)社会の一員であることの意識の定着（デジタル社会を生き抜く力の養成）

2. 令和6年度取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1)①法然上人の教え・校訓「正思明行」・学順を意識した生徒指導	A	A	概ね達成できた
②思い出に残る修学旅行の企画と充実	A	A	概ね達成できた
③学年企画による校外学習のリベンジ	D	D	次年度に実施したい
(2)①家庭と学校との綿密な連携	A	A	概ね達成できた
(3)①勉強に集中できる学級の雰囲気作り	B	B	概ね達成できた
②毎日の家庭での学習の習慣の確立	B	B	個人差がある
③定期考査前の補習の実施	A	A	概ね達成できた
※総合進学コースの目標			
①模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値 50を目指す	B	B	今後の課題が多い
※特進Ⅱ類コースの目標			
①模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値 55を目指す	B	B	今後の課題が多い
※特進Ⅰ類コースの目標			
①模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値 60を目指す	B	B	今後の課題が多い
(4)①iPadでの課題配布	A	A	概ね達成できた
②ICT機器の積極的な活用による授業展開	A	A	概ね達成できた
(5)①学年担当者会議の可能な限りの実施	C	C	時間の制約が厳しい
②日常の会話による生徒の情報交換	A	A	概ね達成できた

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：A 予定通り進んだ / 顕著に成果があったB ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでないD 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

いよいよ来年度は最高学年となるため、大学入試に向け各部署と連携を取りながら進めて行きたい。また、生徒・保護者には、上宮太子高校に入学してよかったと思ってもらえるよう、「明るく、正しく、仲良く、そして厳しく」を意識して指導していきたい。
--

部署名	高 校 3 年	担当者	漁野 篤史
-----	---------	-----	-------

「より素晴らしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標

1. 協働力を高め、人道を知り、公共心を育む。
2. 自律性を養い、自己効力感を高める。
3. 知識を身につけ、好奇心を育み、基礎学力と学習習慣を身につけて、志望大学に合格させる。
(国公立大学合格10以上、関関同立合格17以上、産近甲龍合格88以上、各生徒の進学目標達成)

(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標

校訓「正思明行」を体現した、自走できる生徒づくり(三五力の完成)

2. 令和6年度取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1. 協働力を高め、人道を知り、公共心を育む。 (1) 役割を与え、励まし、協力し合える環境を整える。(学級活動の活性化) (2) 他人のために、できることを考えさせる。(人権、宗教、青少年赤十字活動)	B C	B C	・進学へ向けて個人活動になりがちであった。 ・年間を通じての人権教育以外に、特に取り上げることはなかった。
2. 自律性を養い、自己効力感を高める。 (1) 自分達のことは自分達でできる様にする。(日直・係) (2) 「やればできる」を合言葉に、達成感を感じる取り組みを行う。(褒めて育てる)	A C	A C	・生徒による朝礼、終礼を実施し、当事者意識の醸成に貢献できている。 ・前向きな姿勢で指導に当たっているが達成感を感じる取り組みは少ない。
3. 知識を身につけ、好奇心を育み、基礎学力と学習習慣を身につけて、志望大学に合格させる。 (1) 授業およびコース別補講習の充実 (2) 国公立大学合格10以上、関関同立合格17以上、産近甲龍合格88以上、各生徒の進学目標達成	B B	B B	・年間を通じて講習を実施した。 ・国公立大学合格 11 関関同立合格 20 産近甲龍合格 35

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

卒業後も、困った時には力になりたい。

部署名	人 権 教 育	担当者	前田 良仁
-----	---------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ①学年の現状に合わせた新しい教材を使った教案の作成 ②育てる人権教育の実践 ③いじめ防止対策委員会の年間計画に基づく人権教育の実践
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 学校生活の中で人権問題(友達との関係、SNS、LINEによる問題など)を認識する。

2. 令和5年度の取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①教材の開発 生徒の実態を考慮した教材の開発 SNS、インターネットと人権などに関する新しい教材を開発する	A	A	インターネット、SNSによるトラブル、アップロード、スマホ依存症の学習動画を学習して、意見アンケート記入を実践しました。
②育てる人権教育の実践 自他を理解した集団づくり(クラス、クラブ活動) 相手の立場、気持ちを理解する	B	B	震災発生時の危機対応、について学習しました。人権教育の趣旨に相応する内容を検討すべきでした。
③生活アンケート 生活アンケートを各学期の最後に実施する、差別、偏見をテーマにした人権教育LHRの実践	A	A	生活アンケートを基に、いじめ防止対策委員会を通じて、さまざまな意見、今後の対策を確認することができました。アンケート実施前後で問題が生じることもあり、直接結びつかないこともありました。

※遂行度: 各項目の進捗状況 / 達成度: 各項目の達成・評価状況

※評価基準: A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

各学年の指導課題、目標に応じた学習、計画案を検討していきたいです。 1年生はインターネットと人権、差別、部落問題。 2年生は国際理解、在日外国人問題。 3年生は就職差別、社会における人権問題に加えて最後に人権教育としての総括をしたい。
--

部署名	保健管理	担当者	大倉 笑
-----	------	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 - 生徒の多様なニーズに伴い、保健室運営の充実を図る - 健康診断を生徒が積極的に受けるよう健康教育に関する資料を集積し活用させる - 一人一人を大切に健康相談を行う
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 生徒（新入生・在校生）の保健情報入力迅速化及び情報共有の推進

2. 令和6年度の取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
- 生徒の多様なニーズに伴い、保健室運営の充実を図る - 的確な救急処置対応 - 心の問題を抱え込まない環境づくり - 健康診断を生徒が積極的に受けるよう健康教育に関する資料を集積し活用させる - 健康診断の意義・健康診断の内容について、校内ネットワークを活用する - 教職員との情報の共有化を図る - 一人一人を大切に健康相談を行う - 傾聴を心がけ、適切な指導ができるよう自身の資質の向上を図る	B C B	B C B	- 生徒・保護者の価値観の多様化に基づき、必要とする保健室の運営を心がけて遂行した - 救急処置は滞りなく適切に施行し、医療機関へつなげ、救急搬送も行った - 保健室来室生徒は1800名で、外科的処置より内科的処置が多く、頻回生徒もいた - 心に負担がかかり、悩み、解決しにくい状態の生徒の生徒の居場所として確立しながら、将来を見据え、教室復帰への足掛かりとなるよう支援した - 生徒の健康診断受診率はすべての項目で9割を超えて受けている - 有所見の生徒の再検査受診に時間を要したが、課題として残る。 - 健康診断を欠席しないよう啓蒙すると同時に欠席者生徒の検診と教職員健康診断が同日であるので、速やかに終了できるよう工夫が必要だ - 安心・安全な学校生活を過ごすために、生徒のヘルスリテラシーを高める情報発信を検討する - 何らかの原因で、心身に不安を感じ来室した生徒は、一人一人の話を丁寧に聞き取り、その上で一歩前へ踏み出せるよう促す姿勢を心がけた。 - 私立学校保健会の研修はもとより多様な研修会に参加し、研鑽を重ねたい

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：
A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった
B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった

C あまり進んでいない / あまり成果がでていない
D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

今年度は、来室生徒数が増加し、心因的な不調、またそれによる体調不良を訴える生徒のクールダウンの場としてのニーズを実感した。今後は、学校生活に困難を感じている生徒の居場所を確立させるとともに、学級担任や教育相談係、スクールカウンセラーとの連携を深め、生徒が教室での授業に復帰できるように支援していきたい。
--

部署名	図 書 教 育	担当者	植田 梨絵子
-----	---------	-----	--------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ①学校司書と協働した図書室の運営管理の充実 ②書籍の充実 ③委員会を主体とした読書啓発活動の推進 ④図書室行事や利用者向上のための広報活動
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・OPAC 利用や蔵書管理システムの有効活用 ・公的図書館や近隣大学との連携

2. 令和6年度の実施計画 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 学校司書と協働した図書室の運営管理の充実 ・紀伊國屋書店と連携を図り、業務の効率化や蔵書管理の徹底を行う。	A	A	継続したスタッフとのやり取りのため、3年目を迎えたので、学校の動きや生徒の雰囲気も理解してもらい、スムーズな運営ができた。遊及作業も徐々に進めているので、蔵書管理の精度が上がっている。
② 書籍の充実 ・専門的な視野やジャンルレスな本の選書を心がけ、さまざまな書店や図書館と意見交換を行う。	B	A	これまで各学期で選書を行っていたが、「旬」な本を意識するため、選書の回数を増やして、話題の書籍や生徒の動きに合わせた選書を行った。
③ 委員会を主体とした読書活動の推進 ・委員の条件を提示し、積極的に活動ができる生徒を募集し、図書室利用や読書推進に貢献する生徒を育てる。	B	C	委員会の活動をうまく促すことができず、活動日を設定することもなかなかできなかった。来年度に向けた課題がたくさん出てきたので、改善できるよう努力していきたい。
④ 図書室行事や利用者向上のための広報活動や ・図書室のイベント企画を計画的に行う。 ・活動の機会を増やすよう探究やHR、各教科での活用を促す。 ・教職員の利用を促進させる。 ・授業や行事で活用する連絡を徹底し、作業の計画が崩れないようにする。 ・授業で利用しやすいよう工夫をする。 (資料の整備や本の提案など)	A	A	イベントに合わせた広報活動 (Instagram やポスターなど) を定期的に行うことができた。それによって図書室へ訪問する生徒も増えた。教職員へもアプローチをしているが、読書習慣のある教職員しか貸し出しがない状態である。本に興味を持ってもらえるようまず、教職員へのアプローチも考えていきたい。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後実施計画 ※3月末までに記入

会計報告の形式を刷新しわかりやすい表記にすることや、マニュアルの更新などがあげられる。日々のレファレンス業務や蔵書管理の作業は定着し、整理できてきているので、引継ぎに困らないよう初期に作られたマニュアルの見直しを図る。 1年間のサイクルがわかって、イベントの計画やアイデアなどを委員会へ提案し、進めていけるようなリーダーを育てていきたい。本が好きとか、図書室に関わりたいという生徒が委員会に立候補してくれるようになってきたので、新たな動きをしていけるよう促していきたい。 地域の図書館 (太子町立図書館など) へも訪問し、情報を共有し、選書などの参考にしていく。また、上宮学園の図書館との連携も持てるよう検討していきたい。

部署名	広 報	担当者	淵 昭嘉
-----	-----	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ・次年度生徒募集につながる広報物の発行 ・ブログの更新回数やインスタグラムを活用した効果的な広報活動の検討・実施。 ・近隣地域に向けた広報活動の充実。(道路沿いの横断幕、バス側面の広告等) ・入試対策部及び新しい広報依託業者との連携強化。
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・学園財政を鑑み、広報効果が低い紙媒体や説明会ブースを削減し、広報費用のコスト削減を図る。 ・今後の広報戦略における立案を図る。

2. 令和6年度取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1) 本校ホームページの更なる改良 ・広報依託業者と連携を図り、ホームページが利便性の高い状態を維持する。	B	B	委託業者との連携により、学校案内・ポスター・ホームページの作成及び運営を行うことが出来た。
(2) ブログの更新回数増加とアップ内容の精査 ・ホームページのアップ内容を精査し、日常的に学校の情報を発信することを目指す。	C	C	行事に関しては、内容の詳細が分かる文章と写真をアップし、内容の充実を図っている。インスタグラムは頻繁に更新が出来ていたが、HPのブログ更新は滞ることがあった。
(3) 近隣地域に向けた広報活動の充実 ・見やすく、インパクトのあるものを作成する。	C	C	今年度は懸垂幕の掲示と太子町広報誌への広告掲載を行った。今後も地元太子町へのPR活動を続けたい。
(4) インスタグラム活用の検討 ・時代に合わせた広報活動を追求する。	B	B	さまざまな情報を集めながら研究をし、積極的に検討を進めた。
(5) 学園財政を鑑み、広報費用の見直し ・昨年度の実績をもとに費用対効果の高いものを選定し広報活動を行う。	A	A	概ね前年度通りのブース数及び広告本数で広報費用を抑えることが出来た。前年度の踏襲だけでなく、より厳しく費用対効果の精査が必要である。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

・広報依託業者との連携のもと、学校の魅力の伝え方を模索していきたい。今年度、オープンキャンパス・入試説明会ともに参加者数が増加した。専願率が1.5次を含め100%に達したことは、一定の効果があったものと考えられる。令和8年度入試においては、専願率115%を目指した取り組みの検討を行う。 ・新入生及び在校生に対するアンケートの集計・分析により、上宮太子の強みと課題を明確化することが出来た。広報物の作成時期を従来よりも前倒したスケジュールにより、入試対策部にとって外部にアピールする適当な時期に、必要な広報物が揃えられるような支援をしていきたい。
--

部署名	事務室	担当者	松井 保
-----	-----	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和6年度の重点目標 ※4月30日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ① 生徒・保護者・教員とのコミュニケーションの充実 ② 企画・運営に関する事務 ③ 校内・教育環境のさらなる整備
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 学校の課題を真摯に考え、より地域に密着した必要とされる学校運営を模索する。

2. 令和6年度取り組み内容 ※内容は4月30日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① コミュニケーションの充実 事務室は、生徒・保護者、来客との重要な役目である窓口を担っている。事務部門はもとより、教務部門と外部をスムーズにつなげるべく学内でしっかりと情報共有を図る。周囲とのコミュニケーションを密にし、情報の抜け漏れや、うっかりミスを防ぐためにも複数回、確認を取るなど、工夫を凝らしたい。	A	A	日頃からきめ細かくコミュニケーションをとることを全員が心がけており、齟齬の無い情報の共有が出来ていると思われる。今後も質の高いコミュニケーションが取れるよう、意識を高く持ち取組みたい。
② 企画・運営に関する事務(昨年度継続) 積極的に学校の課題を把握できるよう常々アンテナの感度を上げておく。また、その課題に対し、多面的な観点を踏まえながら、改善策を提案・実現していく。	A	A	行事の企画に関する相談に対しては、事務的な観点からよりよい提案が出来ていると思われる。今後はさらに相談しやすい雰囲気づくりに注力していきたい。
③ 校内・教育環境のさらなる整備 中長期的な視点から優先順位をつけて魅力ある施設づくりを目指す。	B	B	校舎外壁タイル・屋上防水が完了し、教室の床の張替えも行った。今後は廊下等、共有部に関しても順次改修していきたい。予算・工期・人員が限られ、一気に進まないが粘り強く継続的に取組みたい。
※地域の課題やニーズを把握すべく積極的に外部の人々と接点を持つべく情報収集を図る。	B	B	グラウンド・体育館が太子町の一時避難場所として指定されており、太子町とコミュニケーションをとりながら町の HP への掲載方法などを協議している。今後もこちらから積極的に働きかけるなど、町との連携を高めたい。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入
学校事務の可能性を広げるためにも、継続的にアンテナ感度を上げ、学校・地域の課題に積極的に関わっていききたい。また、教職員の働く環境に関しても少しでも改善点を模索できればと考えている。

施設面では、リニューアルを継続的に進め、魅力ある学校として認められるよう取り組んでいく。

令和6年度 授業アンケート 分析

1. 実施時期

令和6年11月15日（金）に実施

2. 対象学年

全学年

3. グラフについて

各項目に対して、「高い評価」・「やや高い評価」・「やや低い評価」・「低い評価」の4段階で評価をし、「高い評価」と「やや高い評価」を合わせた評価を肯定的評価と呼んでいる。

①教科別肯定的評価グラフ

各教科に所属している教員の肯定的評価の割合を示している。

②質問別肯定的評価グラフ（※印は令和3年度から、*印は令和6年から追加）

「授業マナー」…あなたは、この授業でマナー（私語・いねむり等をしない）を守っていますか？

「授業参加」……あなたは、自分なりの目標を持って、この授業に積極的に参加していますか？

「家庭学習」……あなたは、この授業に必要な家庭学習（予習・復習等）をしていますか？

「情報収集」（※）…この授業に関する課題や関心事項についてインターネットや図書等を活用して情報収集していますか？

「話し方」……先生の話し方や説明の仕方はわかりやすいですか？

「板書等」……先生の黒板やICT機器・プリント等の使い方（体育・芸術等は実技指導）は良いと思いますか？

「要点強調」……先生の授業は、重要なところが強調されていますか？

「授業難度」……授業の学習内容のレベルは、ちょうど良いと思いますか？

「授業速度」……授業を進めるスピードは、ちょうど良いと思いますか？

「理解確認」……先生の授業は、生徒の理解を確かめながら進められていますか？

「質問発言」……先生は、生徒の質問や発言を促し、ていねいに対応していますか？

「授業展開」……授業の進め方（組み立て）は、興味関心を引き、学習意欲をわかせると思いますか？

「教員熱意」……先生の授業に熱意を感じますか？

「公平対応」……私語などに対して適切な対応が取られ、公平で思いやりのある授業ですか？

「満足度」……この授業は、あなたにとって良い授業だと思いますか。

「学力向上実感」（*）…あなたは当該科目の学力（実技教科は「知識・技能」）が向上したと感じますか？

「モチベーション」（*）…あなたは当該科目の学習に前向きに取り組めましたか？

「興味関心向上実感」（*）…あなたは当該科目への興味、関心が向上しましたか？

「学習の自己調整実感」（*）…自分なりに見通しを持ったり、工夫したりしながら当該科目の学習に取り組んでいますか？

この内、「授業マナー」・「授業参加」・「家庭学習」・「情報収集」は生徒の自己評価になります。

4. 分析

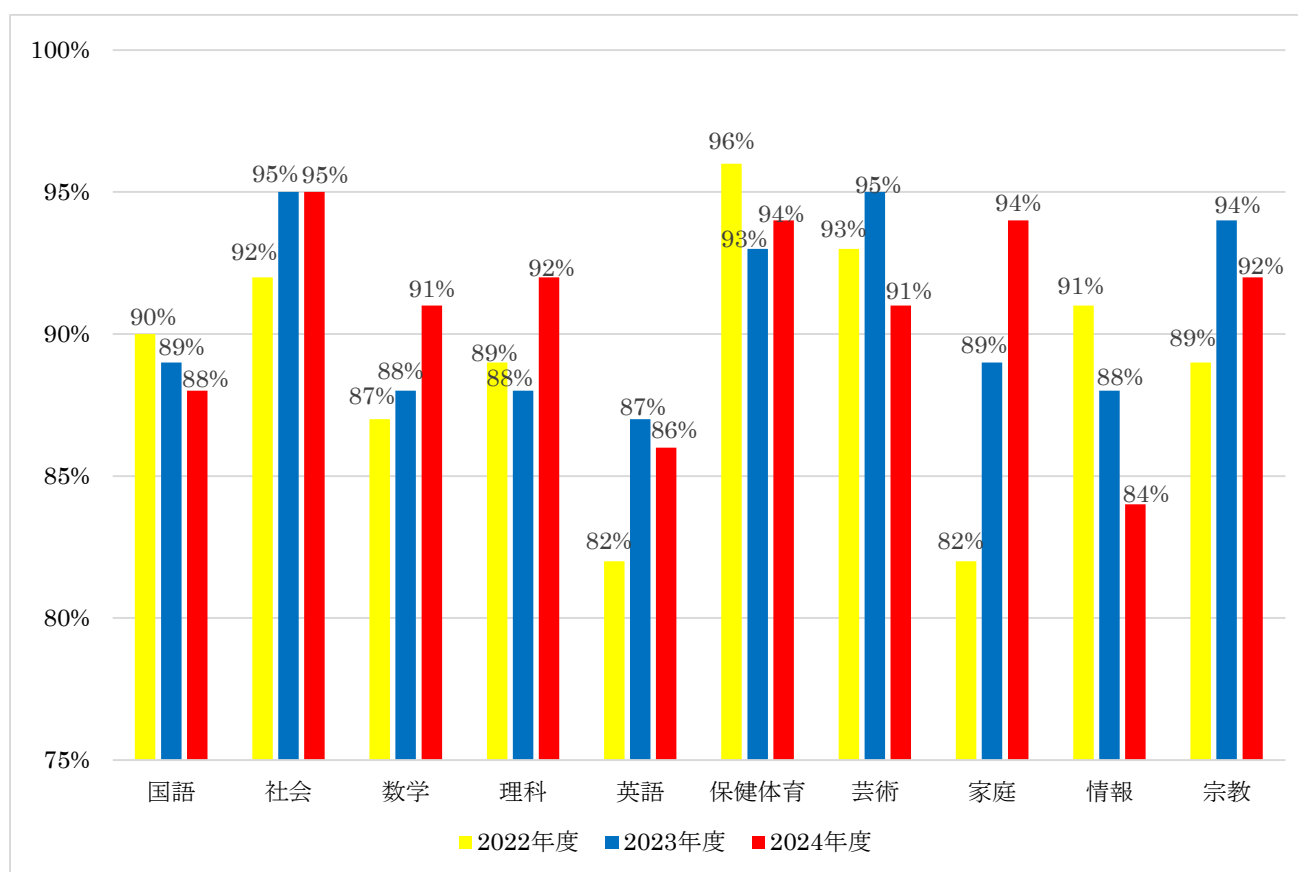
①教科別肯定的評価

約6ヶ月間授業を実施して、生徒がどのような受け取り方をしているか、また、どこに問題点があるかを確認し、その後の授業に反映できるように行った。

ここに載せたグラフは、全教員の平均であり、かなり経験豊富な教員から経験がまだ少ない教員まで含まれている。各教科でお互いに情報交換をしながら、全体的にレベルアップをしていけるように活用したい。

教科別肯定的評価グラフにおいて、各教科とも80%以上になることを目標としている。今年度もすべての教科で目標の80%以上をクリアできており、全教科85%クリアも現実味を帯びてきた。数学科と理科が大きく上昇しており今年度の特徴となっている。国語科においては僅かずつとはいえ連続しての下降が続いており、引き続き注意が必要と考えられる。過去3年間のグラフを比較すると、全体としてはもともとかなり高い評価を受けているので、1～2ポイント下降することは容易にあり得るが、下降したという事実を軽く受け止めることなく、その原因をしっかりと考え次年度では必ず向上するよう期待したい。

授業アンケート3年間の結果比較（①教科別肯定的評価グラフ）



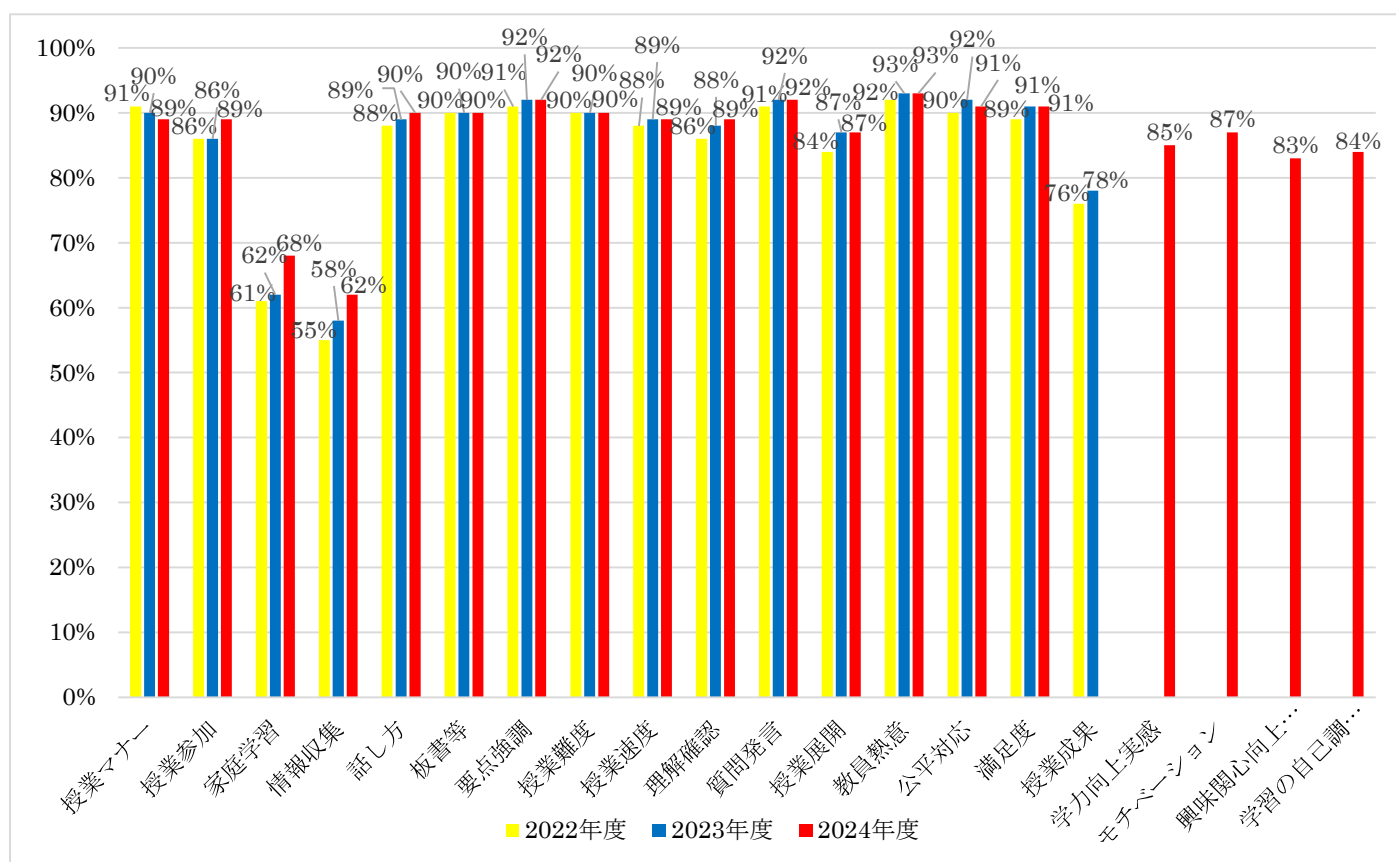
②質問別肯定的評価

質問別肯定的評価グラフにおいては、昨年まで「授業成果」として質問していた項目を4つに細分化し、生徒が何について答えればよいかを明確にした。その結果、昨年までの「授業成果」より肯定的評価が上昇している（答えやすくなったと考えられる）。継続的な課題である「家庭学習」が微増とはいえ連続しての上昇傾向にあり（自己評価の「家庭学習」は実技教科を含んだ数値であるため、40%以上が目安になるが、今年度は68%）、課題の設定やICTの活用などの工夫が功を奏していると考えられる。

他に、生徒の満足度を左右する「授業展開」の評価については、ここ最近では80%台を守ることができているが、他の項目に比べて毎年低い所からは脱却できておらず、「理解確認」や「授業参加」を促すなど改善の余地があると思われる。ただ、今年度も全体として見れば、各項目で昨年度を下回る結果がほとんど無く、評価できるポイントである。高い結果が出続けているということは、下降する可能性の方が高くなる傾向が出てくるが、そのことに甘んじることなく、各教科会等で話し合い工夫することが大切である。

また、令和3年度から追加した「情報収集」については、昨今のインターネット社会における時代の変化から、自ら考え、自ら情報収集し、問題解決に当たることができる人材育成に繋がればとの思いから追加したのであるが、毎年上昇していることから各授業でICTの活用が年々進んでいることが覗える。

授業アンケート3年間の結果比較（②質問別肯定的評価グラフ）



令和6年度 学校評価に関する報告書

上宮太子高等学校

1. 令和6年度年間目標

令和6年度の年間目標として、「浄土宗の教えを基盤としながら、卒業後の人生に役立つ人づくり、人間力の向上」という前提のもと、昨年に引き続き「基本的な生活習慣を身に着けたうえで、細やかな指導により学力面を向上させ、各コースからの大学合格者数の数値目標や英検の取得目標を実現させること。これらの実現に向けて各部署それぞれが連携して職務に取り組み、各教科が授業力の向上のために研究に取り組むこと。」を掲げた。

2. 各部署の目標と評価

①教務部

【重点目標】

1. 教務運営システムの整備、効率化
 - ・教務クラウドシステム(BLEND)の円滑な運用
 - ・就業システムを円滑に運営するため、事務所、総務との連携
2. 有効な指導体系の継続検討
 - ・全学年新カリキュラム導入期における校内整備
 - ・ICTの導入による新しい教授法の検討
 - ・不登校生徒に寄り添うためのオンライン授業等の単位認定の検討
3. 国際理解教育の推進
4. 学校行事の充実
 - ・生徒募集に繋がる行事の精査と更なる充実

【評価】

- ・業務内容を明確化し、点検と整理を行った。「BLEND」導入3年目となり生徒、保護者、教員に定着しつつある。
- ・観点別評価の評価方法や調査書発行においてこれからも改良が必要である。
- ・起立性調節障害等配慮を要する生徒のための支援システムが確立、運用できている。
- ・オンライン英会話に加え、コロナ禍後久々となる海外語学研修を実施できた。
- ・各部署との連携を図り、先生方の協力のもとで学校行事を円滑に進めることができた。実務面で出た課題改善に向けて、更に内容の充実を図りたい。

②生徒指導部

【重点目標】

1. 校訓と学順の実践、生徒指導の推進と問題行動の予防強化、生徒の道德意識、規範意識および生徒の愛校心の向上
2. 生徒会活動、委員会活動、広報活動、クラブ活動の活性化。
3. 教職員への啓発、スクールカウンセラーと教職員との連携および教育相談室の活用

【評価】

- ・生活指導で身だしなみチェックを行う事で基準が一律化されたが、規範意識の向上に向け指導しなければならない生徒が後を絶たない現状がある。
- ・40周年の節目の行事において生徒がある程度前に立って進行でき、クラブ生が中心となって行事を盛り上げた。
- ・生徒会が率先して広報活動に関わった。
- ・カウンセリングに関する研修会を設定はできたが実施ができず、教職員との連携は次年度への課題となった。

③進路指導部

【重点目標】

1. 進学実績の目標達成（3年）
 - ・国公立大 目標 10 以上
 - ・関関同立 目標 17 以上
 - ・産近甲龍 目標 88 以上
2. 基礎学力の向上（1、2年）
 - ・進研模試偏差値 ss52 以上を学年の1割以上
ss46 以上を学年の3割以上
 - ・スタディサプリ有効活用による成績向上
 - ・「自走」の推進と教員の関わりの指導
3. 「iPad が動く学校」の展開への意欲的な挑戦
 - ・Microsoft のプラットフォーム整備
 - ・iPad の新しい使用法の模索および教員の使用推進
4. 主体性を育む教育
 - ・探究活動の推進
5. 戦略的改革
 - ・生産性の高い進路指導体制の構築
 - ・新学習指導要領への対応と教員への啓蒙
 - ・学校全体の意識改革

【評価】

- ・国公立大学については、最後まで粘り強く取り組んで頂いた事で成果が出た（現役 11）。関関同立についても、生徒の頑張りで目標は達成出来た（現役 20）。しかし、産近甲龍については特に英語力の不足が大きく響き厳しい結果となった（現役 35）。
- ・進研模試偏差値についても毎年目標を達成していないにも関わらず、結果については学年任せになっている部分を早急に改めなければならない。
- ・探究活動は、来年度から探究専門チームを中心に学校全体の意識を変えていきたい。
- ・スタディサプリを含め、リメディアル教育を中心とした教科指導への介入も積極的に進めることで、現状の学習について生徒も教員も「上手く行かない」部分を打破していきたい。

④入試対策部

【重点目標】

1. 受験者数の安定的確保に向けての広報活動
 - ・ 受験生や保護者への直接的なアプローチ
 - ・ 校外説明会における校内説明会や学校見学参加への呼びかけ
 - ・ オープンキャンパス参加者数の確保
2. 効率的な広報物の制作、活用
 - ・ ミニパンフレットや行事リーフレットの配布
3. 情報の収集、共有化
 - ・ 生徒の情報収集および校外で得た情報の教職員間での共有
 - ・ 上宮学園中学校、上宮高校との情報共有

【評価】

- ・ 在校生の様子をこまめに伝えることで、生徒を安心して預けていただけるよう努めた。
- ・ 校外での説明会においては、多数の教職員の協力により、活気があって先生どうしの仲が良い上宮太子をアピールすることができた。
- ・ オープンキャンパスⅡ（台風接近のため中止）が実施できていたら、過去最高の 1100 人以上の受験生が校内に足を運んでくれたこととなっていた。
- ・ 広報物を時期に応じて必要なものを追加し配布することで効果的な広報活動ができた。
- ・ 渉外活動において知り得た情報については、入試対策部内で共有化を図り、各学年、担任、担当者、プロジェクト会議にもすみやかにお伝えするようにした。

⑤教科

【重点目標】

- ・ 授業の厳正化、および学力、指導技術の向上
- ・ 新学習指導要領への対応と ICT 活用の研究
- ・ 大学入試問題等の研究推進及び対策
- ・ 教科会の活性化並びに研修会への積極的な参加
- ・ 教材の見直し、整備

【評価】

- ・ 教科により、教員間の情報共有や意見交換は行われている。研修会への参加はあまり進んでいないが、参加できた研修会の内容は共有できている。
- ・ 新学習指導要領に基づく入試の研究が各教科で研究が進んでいる。模試対策や事後の活用など教科ごとに工夫されている。
- ・ ICT を用いた課題作成が進んでいる。実技教科においても ICT 活用の研究が進んでおり積極的に取り入れられている。なお、観点別学習状況評価については作品から判断するのは難しく、引き続き協議していく必要がある。
- ・ 時代に合った知識や技術を精査し、幅広い学習域をうまく取り込めるよう授業展開を考えていきたい。

⑥学年

【重点目標】

1. 校訓、学順の実践、メリハリのある生徒指導
2. 公共心、協働性、自律性を育てる
3. 学習習慣の確立と学力向上および適切な進路指導
4. 担任団、学年担当者間、各分掌、保護者との連携および意思疎通

【評価】

- ・各学年とも年度当初の目的は概ね達成できた。身だしなみや家庭学習習慣の確立については、学年を通じて今後も取り組んでいきたい。
- ・各学年とも生徒の実態に応じて指導しているが、多くの生徒が達成感を感じることが出来るよう今後も継続して取り組みたい。
- ・学年の進行に応じて工夫がなされ、学習の成果が出ている部分もあるが、模試の結果のように達成できていない目標もあるので引き続き取り組みたい。3年生は年間を通じて講習を実施し、国公立大や関関同立の合格数は目標を達成できたが、産近甲龍合格数の目標達成は叶わなかった。
- ・ロイロノートや BLEND 等の活用より、担任団、学年団に止まらず教職員全体の情報共有や保護者との連携もたいへん密になってきている。

⑦その他

【重点目標】

1. 学年の現状に合わせた新しい教材使用による教案の作成、いじめ防止対策委員会の計画に基づく人権教育の実践等
2. 生徒の多様なニーズに応える保健室運営の充実、一人一人を大切にした健康相談等
3. 学校司書との協働による図書室の運営管理の充実、委員会活動を主体とした読書啓発活動の推進、利用者向上のための広報活動等
4. 次年度生徒募集につながる広報物の発行、ブログや SNS の活用、近隣地域に向けた広報活動の充実、入試対策部との連携強化等
5. 生徒、保護者、教員とのコミュニケーションの充実、校内、教育環境の更なる整備等

【評価】

- ・生活アンケートを基に、いじめ防止対策委員会を通じて様々な意見や今後の対策を確認できた。インターネットや SNS による人権に関わるトラブルについて学習させることができた。
- ・生徒、保護者の価値観の多様化に基づき、必要とされる保健室の運営を心がけて遂行した。何らかの原因で心身に不安を感じ来室した生徒に対しては、一人一人の話を丁寧に聞き取り、その上で一歩前へ踏み出せるよう促す姿勢を心がけた。今後も引き続き私立学校保健会の研修はもとより多様な研修会に参加し、研鑽を重ねたい

- ・紀伊國屋書店との業務提携が三年目を迎え、学校の動きや生徒の雰囲気も理解してもらうことができ、スムーズな運営ができた。遡及作業も徐々に進めているので蔵書管理の精度も上がっている。委員会の活動についてはうまく促すことができず、活動日を設定することもなかなかできなかった。来年度に向けた課題がたくさん出てきたので、改善できるよう努力していきたい。
- ・広報依託業者との連携のもと、学校の魅力の伝え方を模索していきたい。今年度、オープンキャンパス・入試説明会ともに参加者数が増加した。専願率が1.5次を含め100%に達したことは、一定の効果があったものと考えられる。令和8年度入試においては、専願率115%を目指した取り組みの検討を行う。
- ・日頃からきめ細かくコミュニケーションをとることを全員が心がけており、齟齬の無い情報の共有が出来ている。今後も質の高いコミュニケーションが取れるよう、意識を高く持ち取組みたい。施設整備の面では、校舎外壁タイル・屋上防水が完了し、教室の床の張替えも行った。今後は廊下等、共有部に関しても順次改修していきたい。

3. 授業アンケート

授業アンケートは2学期に1回実施し、各教員の授業力の向上を図った。資料については別紙に記載している。